

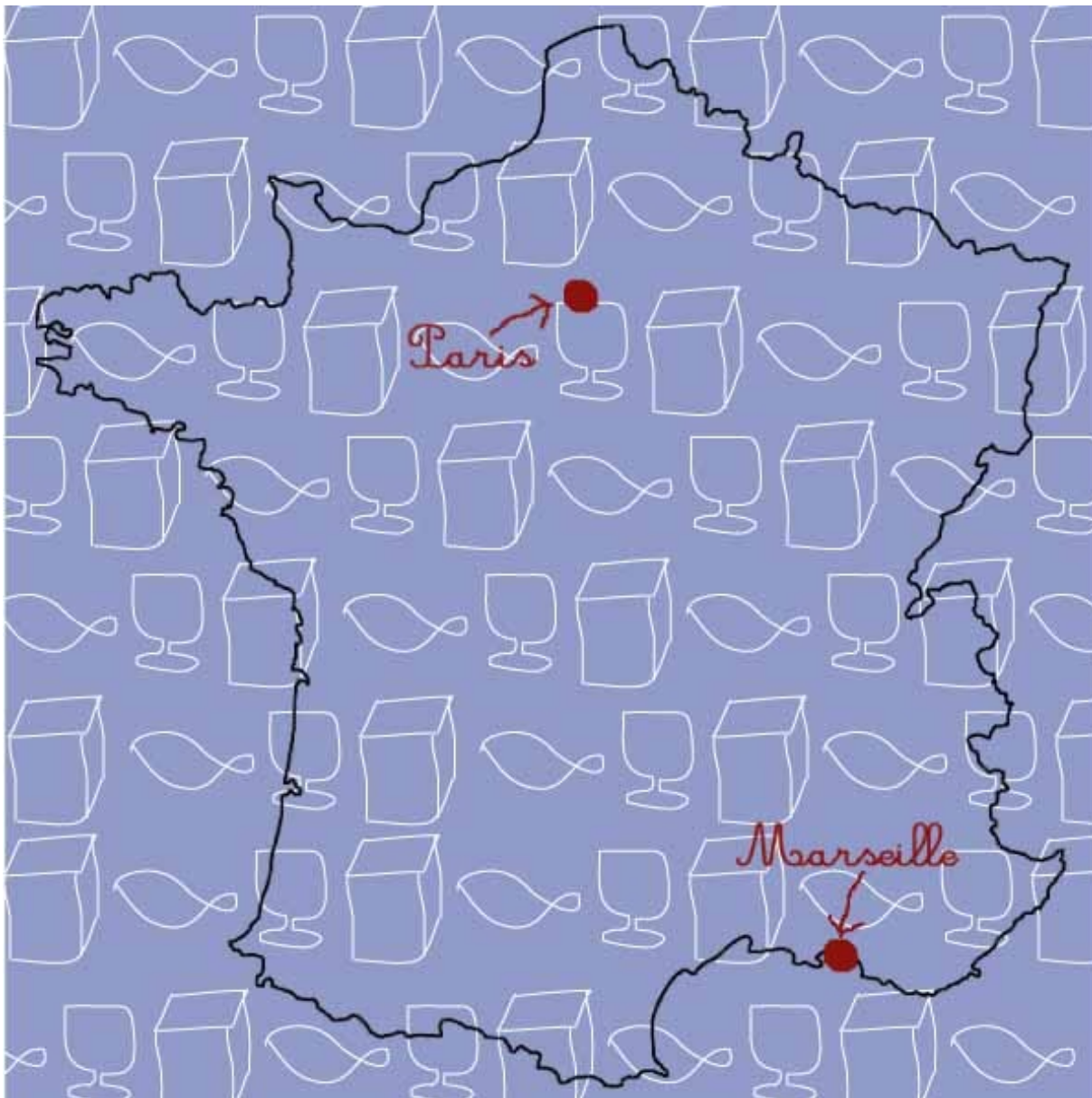


Cahier de Marseille

マルセイユのなかみ

福井れいこ

太陽と、魚と、海と、石鹼、そしてほんの少しのパスティスで出来た輝いた街



東京に住んでいた頃”近所にマルセイユ人が居た”というだけで私のフランス行が急遽北から南に変更になった。

今まで折り目をつけていたページはブルターニュばかり。

「海や太陽よりもちょっとばかりアンニュイなグレーな街の方が好きなんだけどなあ...まあ、1年ちょっとの留学だからその後は引っ越せばいいか...」とお気軽な気持ちで来てしまいました。だけど、気が付けばどっぷりとマルセイユの生活にハマリ、早6年が過ぎました。

今ではマルセイユと私は切っても切り離せないご縁が出来てしまったようです。

3年前から、そんな愛すべきマルセイユの良さを他の土地に住むみなさまにも知っていただきたい！と、欧州最大の日本語フリーペーパー「[NEWS DIGEST\(ニュースダイジェスト\)](#)」のWEB版の一角を頂き、この街に関する様々な事をコラムに書いています。

最近では取材した所を再び訪れると「日本の人が来てくれたよ！」とニコニコしながらお礼を言われたり、いつも通るカルチエを散歩していれば一生懸命地図を見ながら何かを捜している日本人観光客をお見かけします。

今までは考えられなかったので、少しでも私の文章で「マルセイユに行ってみたい！」と書いていただけたらとても嬉しいです。

今回は旅をする時に少しでもお役に立てるようにと、ニュースダイジェストの編集部の方の了承を得て、別冊のPDFを作ることにしました。

必要なページだけをコピーしてガイドブックに張って持って来るもよし、全部をコピーして冊子にしてもよし。

これが機会でみなさまの旅行プランの中に「マルセイユ」が入る事をこっそり願っています。

最後にこのPDF化にご承諾を頂いたニュースダイジェスト編集部の方のみなさまにお礼を申し上げます。

サッカーファンのためのマルセイユ案内

マルセイユに来ると、至る所でサッカーをしている少年達に出会います。

ご存知元世界のサッカー王「ジネディーヌ・ジダン」の生まれ育った土地であるが故、どうしても彼らを見ていると「この中からジダンが生まれるかもしれない……」なんて、スカウトマンの目で見えてしまいます。

マルセイユはフランスで一番大きなチームを持っています。「L'OLYMPIQUE DE MARSEILLE (ロ・ドゥ・マルセイユ)」通称「L'OM (ロエム)」です。前フランス代表GKバルテズをはじめ、前回のワールドカップで大注目のリベリが所属していて、今は、若くして代表に抜擢されたナスリなどが所属している最も勢いのあるチームです。

…とは言ってもここで言う「一番大きい」というのは経済面ではなく、知名度でもなく「アツさ」がフランス一なのです。これほどまでに市民に愛されているチームは他の都市では見当たらないのでは？

マルセイユで配られる無料新聞「マルセイユ・プリュス (Marseille PLUS)」では、勝っても負けても、他にどんなに大切なニュース(大統領選とか!)があったとしても1面は試合の結果が書かれている。(チームが発行している新聞ではありません、念のため)

ほとんどのBarやCaféには「L'OMの全試合見られます！」という表看板が出ている。

「13(Bouches-du-Rhône)(マルセイユのある県番号)」のプレートを付けた車は「ALLEZ L'OM」のステッカーやロゴグッズで飾られているし、歩く人を見ていけば7割がユニフォームを着ている。



← ほとんどのマルセイユにあるBarはこんな風に

「L'OM見られます」と言った宣伝がしてある。



← マルセイユは普通の観光土産屋にも「タバコ屋 (Tabac)」にもL'OMグッズが売られています。街をあげての応援振りです。

しかも彼らは毎年ユニフォームを新調しているので、開幕と同時に売り切れになる。彼らにとって「L'OM」は楽しみであり、彼らそのものであり、選手は彼らにとって「家族」のようなものなのでしょう。

では、今回はそんなL'OMを巡る旅をしてみましょう。

まず、大通りカヌビエール通り (La Canebière) にある「L'OM SHOP」本店に行って、ユニフォームを買いましょう。



← こちらがL'OMショップ。販売員も客もセキュリティの人もみんなユニフォームを着ています。一体誰が店員で誰が客なの



かが分からない！！

→ 定番ユニフォームから車グッズ、はたまたベビーグッズまで！
家中が水色になってそう！！
もちろんクリスマスプレゼントにも人気★



「まだユニフォームはちょっと...」という方はマフラーを。そしてそれをその場で身につけ「ヴェー・ポール (vieux port) 」へ向かいます。向かう先は「L'OM café」。



← 言わずと知れた「L'OMカフェ」Vieux portの駅を降り、バーガーショップQuickの隣です。港を眺めながらテラスでビールでも飲みましょう★

ここでは歴代の選手の写真やら、トロフィー等が飾られており、サッカーファンなら一度はここでパステイスなんて煽ってみてはいかがでしょうか？

もし少し勇気があれば「C'etait dommage que RIBERY est partie」(リベリが去って残念だ)とギャルソンに話しかけたら最後、あなたはこのカフェから出られなくなってしまうでしょう。

ちなみに酒類を頼むとおつまみが無料で付いてくるのも嬉しい所。

その後カフェを後にして海岸沿いをずっと歩いて行くと「コルニッシュ・ケネディ (Corniche Kennedy)」の外壁に大きな広告が見えます。L'OMの広告壁画です。

今はこのようなものになっていますが、2年前まではジダンが大きく写っており、マルセイユの観光名所のひとつになっていました。

ここで「ジダンもこんな風に海を見ていたのかもしれない



ない」と少し黄昏れてみましょう。



→海を見渡す外壁には「ガンバレL'OM」の広告。一昔前までは「ジダン」の大きな広告だったのですが... マルセイユの観光名所の1つです。

そこからプラド駅 (prado) に向かい「ヴェロドローム・スタジアム (Stade Vélodrome)」へ。
ここはご存知マルセイユのホーム・ピッチ。

→この中にはL'OMミュージアム(Musée Boutique)がありL'OMの歴史やら歴代のユニフォームやらが展示されています。あまり知られていないスポットなので、サッカー好きの方は是非。



そして地下鉄2番線で「カステランヌ駅 (Castellane)」で降りると目の前の広場はあのジダンが幼少の頃兄弟や友達とよくサッカーをしていたと言われています。

→あのジダンが幼少の頃サッカーをして遊んでいたと見られる広場。ここからあの黄金の足が生まれたのですね!!!



帰りにスーパーに行ってお土産調達。

「パッションが足りない!」のキャッチコピーでおなじみのL'OMジュース。リンゴ、モモ、野菜のお味が揃ってます。



←コレが噂の「L'OMドリンク」 パッション(情熱)が足りない時に飲むのだとか.....一度お試しあれ!

モノプリなどの大手スーパー他、このラベルのはってあるBarなどどこでも出してもらえます。

飲んでみるとこっくりとしていて大味。決して「乾いた喉」は潤せませんが、その日1日のL'OM散歩の締めくくりとしてはおいしい味となることでしょう。これを飲みながらの土産話は最高です。

マルセイユの名物「L'OM」のお話いかがだったでしょうか?

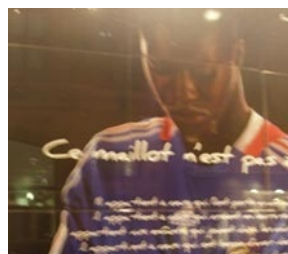
今年は去年リーグ2位だった事によりチャンピオンズリーグに出場してますますがんばっているL'OMですが、肝心の国内リーグは17位と言う散々な順位...この浮き沈みが激しい所もマルセイユ名物の1つ。

「だめだコリヤーああ?」と嘆きながらもそのさまを見守る姿は暖かいのがマルセイユなのです。

→街の至る所にこんな感じで選手の写真が貼られています。こちらはただいまL'OM no.1選手のジブリル・シセ。

→某スポーツブランドの広告塔にもなっております。

(こちらはフランス代表としてのシセ)





- **L'OLYMPIQUE DE MARSEILLE**

公式サイト：<http://www.om.net/>

- **Marseille PLUS**

公式サイト：<http://www.marseilleplus.com/>

朝、中央駅や「ビューポール（Vieux port）」等主要地下鉄駅にて無料配布

- **L'OM café**

[2, quai Belges 13001 Marseille](#)

Métro1番線vieux port駅下車バーガーショップquickの隣

- 外壁の広告

ビューポール（Vieux Port）」から83番のバスに乗り、「オンドゥーム・ペシュール（endoume pêcheurs）」付近で下車。すぐ。「コルニッシュ・ケネディ（Corniche Kennedy）」の外壁です。

- **boutique de l'OM**

[44, Canebière 13001 Marseille](#)（2号店）

[31 r Saint Ferreol 13001 Marseille](#)

- **Stade Vélodrome**

[Boulevard Michelet 13008 Marseille](#)

- **カステラーヌ広場（Castellane）**

地下鉄1番線カステラーヌ駅（castellane）下車エスカレーターを上ってすぐ

蚤の市へ行こう！

ヴァンヴにクリニャンクール.....パリの旅の楽しみの1つに「蚤の市巡り」がありますよね。さまざまな人の手を渡り、時代を経て、今自分の目の前にあるアンティークの品々。一つひとつをじっくり見てみれば、新品だと買うのをためらってしまうキズさえも、愛おしく感じてしまいます。

さて、実はあまり知られていないのですが、マルセイユにも蚤の市「らしきもの」があります。なぜ「らしきもの」なのかと言いますと、古いものばかりが並ぶわけではないからです。どちらかと言うと「Vide grenier(バザー)」と言った方がじっくり来るかもしれません。マルセイユの蚤の市シーズンは3~6月。暖かくなるとどこからともなく車と共に人々(8割がマルセイユおじちゃん)が現れて、トランクの中から大事 そうに品物を取り出しては、前のブースに並べ始める。その前でおじちゃん達はデッキチェアにふんぞり返り「品物を物色している人々」を物色し始める。



←「安くしとくよ、お嬢ちゃん」と声をかけられたら、覚悟を決めて交渉開始.....!

私達客は気に入ったものについて質問を始める。

「これはさあ、オレが若かった時にさあ、って今も若いんだけどよお〜」と日本のおじちゃんも言いそうなジョークを交え、品物についての

ストーリーが始まる。

こういう「モノにまつわるエトセトラ」を聞くと、どうも愛着がわいてきてしまいます。

「うん、うん」とおじちゃん達の話しを一生懸命聞いてると.....



「.....と言うわけでヨォ〜.....うーん」

「どうしたんですか？」

「え.....(汗)」

パリのガイドブックには「まず値段交渉をなささい」と書いてありますよね。「言い値で買ってはいけないよ」と。マルセイユもしかし、で、まず値段交渉から始めます。ただ、気をつけて欲しいのは、彼らはあまり商売根性がありません。蚤の市の目的は「品物を売りながら隣の出店者(もちろん2人は知り合いでもなんでもなし)と井戸端会議をする事」なのです。なので、あまりにも粘っていると相手にされなくなるのでご用心！

中には簡易テーブルを持って来て、ディナーよろしくワインまで開けてる人もいますが、普通はサンドイッチや、ピザを買う人がほとんどです。しかしその前から(まだ午前中!)マルセイユのお酒「51」を煽りはじめ



、いい気分で客相手をしているわけです。

交渉最中に「おう、オマエ飲めるならいっぱいやるか？」なんて話にもなりますので、もし飲めるのであれば、その好意受け取ってみましょう。彼ら喜びますよ。



↑お昼過ぎになると、車の中からごそごそと何かを探しはじめます。ランチタイム。



さて、気になる品物ですが、やはりマルセイユの蚤の市に来ているのだから「これぞ！」というものを買って頂きたい。ズバリ！「Marseille」と入ってるグッズです。

パリでも見かける広告キーホルダーのマルセイユ版。裏に書かれている住所にまだそのお店が存在していると興奮してしまいます。その他にもパン屋の紙袋、マルセイユの学校のノート、ホテルの灰皿、ご当地「51」のダイスなどよくみる

とパリでは見つけれないマルセイユ特有のグッズが埋もれています。



↑たまたま見つけたマルセイユのアンティーク観光ポストカードを見れば「あ！ここ変わってない！」そんな発見があって面白いものです。

そんなマルセイユグッズに魅せられてしまった一人のマルセイユーズ(日本人ですが...) [Chez K.のサイト](#) にはたくさんのマルセイユ古物達が並べられています。

みなさんも、マルセイユに来られる際は是非蚤の市いらして下さいね。(ただし、くれぐれも貴重品、身の回りのものには気をつけて！)

マルセイユと書いてマラケッシュと読む、してその心は！

今年も既に半年が過ぎようとしています、皆様夏の準備はいかがでしょう？

マルセイユが一番満喫できる季節が6~9月なのですが、それにあわせていろいろな催しが準備されています。連日30度を超える日差しの強い日が続きますが、それも何のその！マルセイユは海パンー丁でバスに乗り込みビーチへ繰り出します。

「マルセイユと書いてマラケッシュと読むんだ！」と他地域からきたフランス人に言われるほど、マルセイユは北アフリカ（マグレブ）の移民が多く暮らす街。同郷が集まれば、ふるさとと似たようなカルチエが出来るのも納得？モロッコ、チュニジア、アルジェリア.....はたまた、セネガルやマリ、コートジボワールの人達が多く集まるカルチエがあります。その名もNoaille（ノアイユ）さて、今回はそんなエキゾチックな香り漂うこのカルチエを紹介しましょう。



まずはメトロ2番線「Noaille」駅下車。メトロの駅の中でも最初の方に出来たところなので、門構えなどがしっかりしています。

メトロの出口の前には青空野菜市場が広がります。ここの市場の安さは他と比較にならない！ちょっと形の崩れているものがありますが、それさえ気にしなければ新鮮そのものです。いろいろぐるぐる回って物色してみましょう。

→「今日はトマトの甘いのが入ってるよ！」と八百屋のお兄さん。眼鏡姿が素敵です

さて、市場の脇には「安い！新鮮！感じがいい！」と大評判のお肉屋さんがあります。たまたまこの日は平日の午後に来たので人もまばらだったのだけど、いつもはかなりの込みよう



→店員さんと目を合わせて自分の番にしてもらうのにみんな必死です



その隣は魚屋さん。さすがにvieux portの魚市場にはかなわないまでも、その日に上げられた新鮮なサカナが良心価格で買えるとあって、大人気の魚屋さんです。ちなみに、商品がなくなっちゃうとさっさと閉めちゃうので、なるべく早く行くのがお薦めです。

→「ちょっと多めに重さカウントしておいたから、おまけだよ！」

といつものお兄ちゃん

広場の角を曲がり細い道に入ると、総菜屋さん、八百屋さん、お菓子屋さんなど常設の商店が建ち並びます。

→「今日の夕飯何にしようかな〜」なんて思いながらぐるぐる.....



→ニンニクやサツマイモな

ど青空市場で見つからな

った野菜などは

ここで手





ペースト、オリーブの漬け物、なども1軒1軒自家製なので、いろいろと味見してみてもおいしいものを少しずつ買ってお気に入りのお店を見つけるのも楽しいですよ！

！穀物や乾物も日本ではみた事のないようなものも売られていて バラエティー豊か



こちらはNoailleで一番古いスパイス屋さん。狭い入り口だけど、中が長くて広い！本当にまるで北アフリカに来たような雰囲気。店員のおじちゃんもとてもいい人で、すぐに顔を覚えてくれてサービスしてくれます！

こちらはアフロヘア、編み込み、エクステなどアフリカンヘアに興味のある人向けの美容室。茶色、黒、金髪だけじゃなく様々な色が売られているのが特徴。一度試してみたいかも？！

ちょっと疲れたら北アフリカのサロンドテに入ろう。甘いミントティーと、これまた甘いアラブのお菓子が一気に疲れを吹き飛ばしてしまい



ます。内装はタイルばりのところがまさにアラブのオリエンタルな雰囲気満載ですよ。





こちらは1897年に創業した金物屋さん「Maison empereur」。アラブの雰囲気とは打って変わって「古き良きフランスの昔ながらの金物屋」というイメージを保ち続けているショップです。BGMもアコーディオンのいい感じの曲です。マルセイユに旅行に来た時には、是非ここに立ち寄ってみてください。かわいいキッチングッズがきっと見つかるはず。

さて、こんな様子で、マルセイユのオリエンタルツアー、カルチエ・ノアイユを紹介してみました。いかがだったでしょうか？

日本ではあまりなじみのないアフリカ文化が盛りだくさんのこの地区、是非一度訪れてみてください。



←「お腹すいた？ピザでも食べながら回ったらどう？」

-
- Maison Empereur
4 Rue Récolettes, 13001
メトロ2番線Noaille下車
<http://www.empereur.fr/>

今、五番街がアツい！！

「五番街」と言えばマンハッタン。アメリカでは一番有名なモード街として世界からの観光客が訪れる場所です。

実は.....マルセイユにもあるんですよー「五番街」。その名も「5 avenue longchamp (サンク・アヴェニュー・ロンシャン)」地区。このエリアは中心街から少し離れているので、2~3日マルセイユに滞在するだけだと、訪れる機会はあまりないかもしれません。ただ、地元の人たちから見れば、「今一番アツいスポット」として注目されているんです。

今回はそんな地元の人が思わず通い詰めてしまうマルセイユの五番街、サンク・アヴェニュー・ロンシャンを紹介しましょう。

まず、メトロ1番線かトラムウェイに乗りReformé canebiereで下車します。(ここはサンク・アヴェニュー・ロンシャン地区ではありませんが、ここからスタートした方がブラブラ散歩にはもってこいなのです) すぐ降りて見えるカフェDanaïde (ダナイード)を左手にして、右側にある細い道Rue Consolat (コンソラ通り)が今日のメインストリート。



← Danaïdeは、ここを知らないマルセイユ人はいないよ? というくらいの有名カフェ。ランチの「ベジタブルプレート」がお気に入り^^

さて、細く長く続く道コンソラ通りに入ると、小さな看板が道を飾ります。コンテンポラリーアートの小さなギャラリー、小さな劇場、ミュージシャン連盟.....と、歩いているだけで面白い看板にぶち当たり、つつい中をのぞきたくなくなってしまいます。



←こちらはコンテンポラリーアートのギャラリー。

私にとっては少し不可解な作品が多いのですが、つつい足を止めて入ってしまいます。



ここでは元々あった看板を修正せずに使い続けている施設が多いのです。

←こちらは小さな劇場Pourquoi pas nous? (ブルクワ・パ・ヌ?)。小さな子供向けに演劇を行う協会の劇場です。ちなみに看板に書かれたLa fronnerie (ラ・フロヌリー)は、「ドアの装飾屋」という意味。

←こちらは額縁の修復屋さん。

ちょっとのぞいて見ると、なかなか趣のある額が所狭しと並んでいます。

→そのすぐ横には雰囲気の良いサロン・ド・テが見えます。

少し歩くと忙しく働いているマダム2人を発見！何を
しているのかと尋ねてみれば...
「有機野菜の取り寄せ管理をしているの」



←店全体に並ぶカゴはここのご近所さんが注文したものの。

「これはAB (有機マーク) を取得していないけれど、小さな農家で



作られた石けんやオリーブオイルを売ってるの。おいしいんだから！
 オフィシャルじゃないけど、有機なの。でね〜」話し始めたら止まらないお二人。とても可愛いマダムも、この地区にもう長く住んでいます。



←こちらはオープン仕立てのビストロ Le petit longchamp (ル・プチ・ロンシャン)

！

そして目の前にはなんだか可愛い雑貨屋さんBLISS (ブリス)。

オブジェやアクセサリ、子供服などジャンルを問わず
 カラーとコンセプトには
 セイユのアーティスト作品を集めているので、
 にはもってこいかも？



売っているけれど、
 統一性を持たせてい
 ちょっと変わったお

さあ、この辺りまで来れば、コンソラ通りもそろそろ終わり。突き当たった
 所に見えるのは、皆さんもご存知ロンション宮殿です。こちらはどのガイ
 ドブックにも掲載されるランドマーク的な建築物。



←この厳かな造り！

それにしても、最近のマルセイユはこんなにお天気が続いています。

ただ、ここにはすぐに入らず、トラムの線路沿いを
 右に進みましょう。すると見えるのがこの看板。「
 ステリア)」



フランスでは数少ない(?) おいしいイタリアンレストランです。内装もおしゃれ。

候補1：こちらでランチを楽しんでみる.....？



候補2：あるいはこちら？

ここはサンク・アヴェニュー・ロンシャン地区で最も有名なレストラ
 ンChez vincent (シェ・ヴァンサン)。フランスの大スター、ジョニー・
 アリデイも訪れたという古き良きフレンチのビストロ。中には今まで来店
 した著名人の写真がたくさん並べられています。

←イタリアンとフレンチ、今日のランチはどっちにしよう？

それとも、マルセイユの空を思い切り満喫した〜い！
 という方は、角にあるパン屋さんでサンドイッチでも
 テイクアウトしてみてもは？

←このパン屋さんは毎朝いい匂いが立ちこめていて、行列ができています。

ささっと買って、来た道に戻ることにいたしましょう。

今来た道に戻って行くとHosteriaの向かいにある赤いファサードのお店。こち
 らはマルセイユでも1、2位を争うと言われているおいしいパティスリー。





↑ここでもひとつケーキをテイクアウト。ビジュアル的にも可愛いケーキ.....どれを買おうか迷うのは必至。

それから、ロンション宮殿に上りプラプラと散歩しながらピクニック。これがマルセイユ人お勧めのロンション宮殿での過ごし方。 宮殿の裏側には広い公園があるので、お好きな場所で思い切りくつろいでください。

お腹もいっぱいになったところで、帰りはコンソラ通りとは違う道を通ってみましょう。 帰りはBoulevard longchamp（ロンション大通り）を歩きます。 こちらはトラム開通により石畳が整備され、とてもきれいな通りに様変わりしました。 ただひたすら下って行くと、右手側に見えるのがパッと見ただけでは分からない感じのサロン・ド・テTeavora。 実はこのサロン・ド・テには秘密があるのですが..... それは実際に入ってみてからの楽しみ^^



「お茶よりもお酒！」という方はもう少し進んでいただくことにいたしましょう。 左手側に見えますのが、今日最後にご紹介しますバー・ビストロLongchamps palaces（ロンシャン・パラス）です。



↑雰囲気良くて、サービスがよくて、お酒がおいしい上に安い！このタイルは凄く可愛いので注目

ということで、（お茶かお酒を）一杯飲みながら、サンク・アヴェニュー・ロンシャン地区の感想をあだこうだと言いつつのもまた楽しいものですね。 あるいはマルセイユ・アーティストと芸術談義に花が咲くかも.....！

皆さんがここを散策していたら、もしかしたら私に会うかもしれません。 実は私はこの近くに住んでいる、サンク・アヴェニュー・ロンシャン地区大好き人なのです。 今回はマルセイユの五番街、サンク・アヴェニュー・ロンシャン地区を紹介しました！

● Danaïde（バー・ビストロ）

[6, square Stalingrad 13001 Marseille](#)

TEL : 04 91 62 28 51

● Pourquoi pas Nous（コメディイ劇場）

[34, rue Consolat 13001 Marseille](#)

TEL : 04 91 08 16 06

www.theatre-ferronnerie.org

- La tisane rit (ビオ商品販売店)

[95, rue Consolat 13001 Marseille](#)

- Il dito magico (額修理。オブジェもあります)

[95, rue Consolat 13001 Marseille](#)

TEL : 04 91 05 95 49

www.ilditomagico.com

- Le petit longchamp (バー・ビストロ)

[135, rue Consolat 13001 Marseille](#)

TEL : 04 91 62 08 08

- Galerie BLISS (ギャラリー・ショップ)

[137, rue Consolat 13001 Marseille](#)

TEL : 06 73 47 58 56

www.galeriebliss.com

- Palais longchamp (ロンション宮殿)

[Bd du Jardin Zoologique 13004 Marseille](#)

TEL : 04 91 35 56 74

- Hostaria (イタリアンレストラン)

[44, bd Philippon 13004 Marseille](#)

TEL : 05 91 64 66 28

- Chez Vincent (フレンチレストラン)

[2bis, av des Chartreux 13004 Marseille](#)

TEL : 04 91 49 62 34

- La journée d'INES (パン屋)

[2, bd Jardin Zoologique 13004 Marseille](#)

TEL : 04 91 50 41 71

- Dite moi tout! (パティスリー)

33, bd Phillipon 13004 Marseille

TEL : 04 91 62 01 73

- Teavora (サロン・ド・テ)

[65, bd Longchamp Marseille 13001](#)

TEL : 04 91 95 73 90

- Longchamp palaces (バー・ビストロ)

[22, bd Longchamp 13001 Marseille](#)

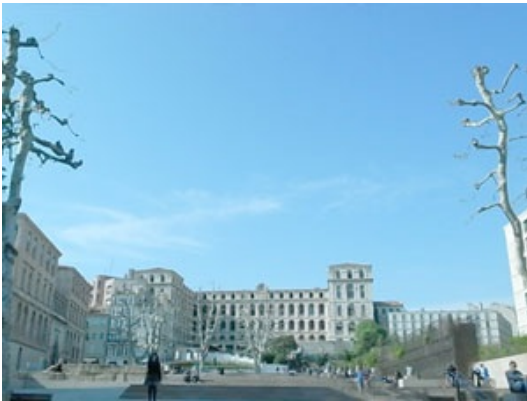
TEL : 04 91 50 76 13

古き良きマルセイユでプラプラ散歩

前回に引き続き、街のお散歩スポットを紹介しましょう。今回はまさに「ぷらぷら」が似合うLe panier（パニエ）地区です。

ここは元々漁師が集まって住んでいた場所。くねくねと細い路地がたくさんあり、地図を持っていても迷ってしまうくせに、地図がなくても何となく歩けてしまう不思議な空間です。

そんなパニエ地区は、古代から本日に至るまでマルセイユでも最も古いとされる建築物が多く残されています。



←奥に見えるのはL'Hotel Dieu(ホテル・デュー)。元は市立病院でした。噂によると2~3年後に4つ星ホテルになるとか.....。

ここからの眺めは素晴らしいですよ！



←こちらはパニエの入り口にある文学カフェ 中でフランス文学に浸ることができます。（もちろん妄想でも可能です）

→こちらはLa campagne de provenceの石けん屋さん。

もはや全国的に有名に.....。



そこから急な坂を上ったり緩やかな坂を降りたり路地を曲がってみたりするなかで、洗濯物が上から干されている家を多く見かけます。

でも実は、フランスは、歩道側に洗濯物をはためかせることは基本禁止です。（日本人にとっては残念でならないのですが.....お日様で乾かしたい） だけど、観光スポットとされていても「外観を壊すから」という理由よりも「住んでいる人の暮らしを優先させている」様子がすぐに分かります。

さすがのマルセイユ人です。

この地区は多くの職人がアトリエを構える所としても知られています。 サントンのアトリエ、ガラス工房、チョコレート（トマトやラベンダーのチョコレートがある！）店。

そして、散歩をしている私が真っ先にお勧めするのは.....

ジェラート！

このジェラートは職人さん手作りのジェラート。



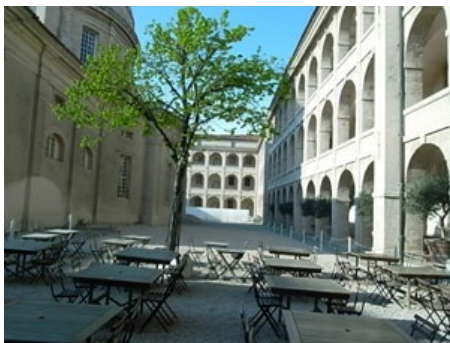
↑おいしい～！思わずモリモリ食べてしまいます。



広場で子供たちがサッカーをしている姿を眺めながらアイスを終
わらせ、目の前にある建物Vieille Charité（ヴィエイユ・シャリテ
）旧施療院に入ります。



この建物は貧しい人たちの保護を目的に17世紀に建てられました。中には、バロック・ローマ様
式の礼拝堂がずっしりと構えています。現在は研究所や、アートブックストア、小さな博物館
など、複合文化施設として使われています。



その1カ所に入っているカフェでオリーブの木の下にテーブルを
取り、パステイスをいただく、なんていうのもまたお勧めです
。

職人のアトリエを巡りながらジェラートを食べ、古い時代へと
しばしトリップ……。こんな1日があってもいいのかもしれま
せん。

ヴァカンスを目の前に、マルセイユ・プチ旅行、計画してみ
て

はいかがでしょうか？

「ビーチ・サッカー・ワールドカップ@マルセイユ」

マルセイユといえば 太陽と、海と、サッカー.....しかないんじゃないの？

といわれがちな我が町ですが（私の記事を毎回読んで頂いている皆様には、「それだけじゃない」とご理解いただけてる事と信じております）

先週より、本当に「マルセイユらしい」催しが始まりました。

ビーチ・サッカー・ワールドカップ@マルセイユ



←「がんばるどーわっしょい！」と見えるのは私だけでしょうか？

太陽の下、砂浜でサッカー。

こんな催し、フランスではマルセイユ以外に考えられないですね。

インターネットのオープンコンテンツ百科事典wikipediaによると、このビーチ・サッカー・ワールドカップは毎年ブラジルで行われていたそうですが、今年から開催地を持ち回り制に変更となり、栄えある第1回開催国としてフランスが選ばれたそうです。

アジア大陸からは日本のみが出場。その他の大陸からは、ブラジル、フランスはもちろん、ウルグアイ、イラン、セネガル、イタリア、ソロモン諸島、ポルトガル、サルバドル、ロシア、アルゼンチン、アラブ首長国連邦、カメルーン、メキシコ、

スペインが参加。この面々、思わず2年前のワールドカップを思い出してしまいます。ルールは普通のサッカーと違い、12分間のゲームが3セット。各セットの間に5分の休憩が入ります。メンバーは1チーム5人。交代は無制限に行う事が出来ます。

試合会場となるコートもとても小さいので、GKがボールを投げると、相手GKまで届いてしまう事もしばしば。それでも芝生の上ではなく砂浜で行われるので、ボールが弾まないし、転がらないため、運動量は普通のサッカーと同じ位ハードなのかもしれません。

さてこの大会、予選トーナメント期間の22日まではなんと入場が無料で観戦出来るとあって、多くの人がこのビーチサッカーを一目見ようと駆けつけていました。

私がまず見たのはフランスvsセネガル。



こちらはPK戦までもつれ込み、セネガルの勝利
そして日本vsブラジル。



さすが、ビーチサッカー発祥の地、そして過去3回の王者ブラジル圧勝でした。

プレイ中は「ここはイビザのお祭りか？」と言うほど、ノリのいい音楽がかかり、中継アナウンサーも

「だんだん盛り上がってきましたよお～皆さん！地響きを起こしちゃってください—————い！！！！」

などと、観客を盛り上げていました。ここで「音」をお伝え出来ないのが非常に残念！

地響きは仮設スタンドに鳴り響き、崩れ落ちないかどうか、ハラハラしてしまいます。

→応援する少年たち。

彼等の服装が「夏のマルセイユスタイル」ユニフォームか、海パンルック。



休憩の合間には「ビキニガールズ」達がダンスを披露、こんがりと灼けた肌にビキニがよく似合います。

おそらく普段見かける「チアガールズ」の役割を果たしていました。

今回は「マルセイユらしい夏の催し物、ビーチサッカー」をお届けしました。ちなみに、2008年度の優勝国はブラジル。さすがビーチサッカー発祥の国、まさに貫禄です。

●ビーチ・サッカー・ワールドカップ

[公式サイト](#)

「世界一周7時間の旅」

「明日世界一周してくるね！」

なーんて言ったら

「またまたあ、マルセイユなんだから」（注：大げさに言うの意味）

と返されかねないのですが.....実は出来ちゃうんです、世界1周の旅。しかもマルセイユ発、さらに徒歩で。

と言う事でやって参りました「Foire d'international@Marseille」こと「世界博@マルセイユ」。そしてそこに住む現地の人々が目の当たりに出来、旅せずともその文化に触れられる数少ない機会なのです。

まずはイタリア館。

マルセイユに近いからだろうか、この展示会場の中で最も大きなスペースを与えられています。革製品（匂いがたまらなくいい！）の工場価格に驚き、青梅サイズのオリーブに目を奪われ、パルメザンチーズの濃厚さに舌鼓を打つ。

右を向けばウイנקをしながら生ハム試食を差し出すイタリアンに思わず恋に落ちそうなり、左を向けば職人手作りのチョコレート☆ これだけでもうフラフラ。

「欲しいものがありすぎて困る！」と思いながらふと近くのATM（現金引き出し機）を見ると、長蛇の列..... 普段買い物をしないとされるマルセイユ人にはありますが、ここぞとばかりに財布のヒモを緩めまくりのようです。

その中でも特に惹かれてしまったのは、ヤドカリの形のナポリのお菓子。展示会場全体を包み込む甘い香りと湯気。

ひとつ頼んで食べてみたヤドカリは、出来たてのシュークリームの中に入っているような濃厚なカスタード・クリームがたっぷり、まわりはカリカリ! ハフハフと冷ましながら食べるヤドカリは絶品！ これぞ旅の醍醐味？



（ワシ、ナポリ人☆）というTシャツを着こなしているおじちゃん。ターコイズのネックレスが利きます。

「「ナポリ＝イタリア」なのになぜにフランス語で書いてあるの？」

「アハハ、フランス人に解るようにさ」

ナポリ人である事を皆に知らしめるために、このTシャツを着てくるおじちゃんはなんて粋&愛郷心が強いんだろう.....

次にカリブの島へと駒を進める事に。

耳にブーゲンビリアを付けて、ムームーを着た女の人や、やり担いでいる男の人とかがいっぱい！

ココナッツシャーベットを作っているお兄さん達は何が楽しいのかゲラゲラ笑いながら作業している。

タヒチのダンスが繰り広げられ、中ではカポエラが行われ、踊れや歌えの大騒ぎ。石鹼だのオイルだのはバニラやココナツの甘い香り。ここで売られている飲み物はほとんどがラムをアレンジしたものばかり。パッション・パンチやココナツ・パンチなど、さまざまなラムのアレンジが楽しめるのもカリブ海ならではの。ノリノリで作る彼らに、私まで踊りだしそうなワクワク感満載である。

最後はいろいろな国が集まる「世界パビリオン」。インド、イラン、カンボジア、ベトナム、中国、タイ、ネパールなどなど。



隣の国のおじちゃん足でぐるぐるを回しながら片手で粘土のろうそく立てを作って実演販売。

ネパールは指人形が売っていて「テレタビーズの【ような】もの」とか「ピカチュウの【ような】もの」とか「生き物の【ような】もの」の形がてんこ盛り。

さらに、歩いているとパレスチナ・スタンドがあり、「紛争」のイメージしかなかった私も、彼らの作り出す素敵なガラス細工にうっとり。

最後に行き着いたのは「世界の屋台」コーナー。

インドカレー、フォアグラ、赤ワインの試飲、ドイツビール、アメリカ本場のハンバーガー！、イタリアン・パスタ、ポルトガル・チュロス、アルザス地方のシュークルート、グランマルニエのたっぷりかかったクレープ、マルセイユビール、思い出す限りでもこれ以上のものが60店舗位あったはず。



その中でも際立っておいしそうなお匂いを放っていた所「コルシカの煮物サンド」を頼んでみる事に。



赤ピーマンと、タマネギと、コルシカのソーセージと、ハムが甘辛で煮られていて、それをたっぷり割ったバゲットに入れてくれる。甘辛のソースがピーマンに染み付いていて、さらにコルシカのソーセージのアブラが煮物の汁にマッチしていて肉汁が絶妙な味！

あっという間に過ぎ去った時間。こんな素敵な世界展、所要時間は7時間弱でございます。陸続きですので、飛行機の怖い方も是非お試しくださいませ。

ただ、お財布のヒモは確実に弛んでしまうと思われます。今から、来年のこの日まで、しっかり節約はじめましょ？！

- マルセイユ世界博について

[公式サイト](#)

駅の近くで会いましょう

皆様、お元気ですか？

1年のうち300日は晴れ、60日は曇り、と言われているマルセイユですが、ここ1カ月は雨ばかり。はじめのうちは「雨もたまにはいいもんだね」なんて話していましたが、こうも連日雨続きだとやっぱり心も湿ってきてしまいますね.....。

そんな具合ではありますが、今回はその「晴れ」を生かしたマルセイユの文化活動をちょっぴり紹介します。

夏になると毎年楽しみになるのが野外映画「Ciné Plein Air(シネプレネール)」



←「Ciné Plein Air」のポスター、毎年可愛いポスターになんだかうきうきしてしまいます。

これは街のちょっとした広場にスクリーンを構え、日没と同時に映画を無料上映するというイベントで、およそ2カ月の開催期間中に30本近くの映画上映があります。映画のセレクションは社会派アニメ「ペルセポリス」から、ハリウッド大作「パイレーツオブカリビアン」までとジャンルの幅が広く、日本のアニメ「平成狸合戦ぽんぽこ」も上映されました。実はこのイベント、1995年に結成されたアソシエーション「cineTilt」が主催しており、基本コンセプトは「移動映画を各地で上映し、マルセイユの住民がより一層映画を好きになって欲しい」という何ともしばらしい志。ちょっとお金がないけど、映画を

見てみたいよという人や、映画館に子供を連れて行くのにちょっとためらっているお母さんたちにはとてもありがたい存在。

こちらはいくつか椅子が用意されている場所ですね。ゆったりと映画を楽しんでいます。



上映開始は「日が沈んだら」。まるで昔の腹時計？ぼんやりと光るオレンジの街灯と空のコントラストをバックに映画を楽しみます。

こちらはほぼ「満員御礼」状態。どこか「体育館、子供上映会」の雰囲気を思い出し、懐かしくなりませんか？





↑恒例となった野外上映では、関連商品の販売も

このイベントは今年13回目を迎え、マルセイユの住民にも恒例行事として定着したもよう。大衆向け映画だけでなく、今度はローカルな映画をみてみたいな.....なんて、ちょっと「文化の楽しさ」を知ってしまった、そんなちょっぴりわがままなマルセイユ。

「冬は何かないのぉー？」という要求に答えるべく、11月に新しい機関が立ち上がりました。その名も「Rendez-vous des quais」(駅のホームで待ち合わせ)

→汽車の車輪部分と映画を掛け合わせて作った グラフィックデザイン。ちょっと可愛いですよね

マルセイユの中央駅「Gare St Charles」の階段近くに出来たこの映画施設は、地域センターとアソシエーションの入念な話し合いにより誕生したもので、映画上映だけでなく、常設展示会場やアート関係のショップ、wifi（無線インターネット）が繋がるメディアスペースなど、市民の文化教育やアーティストたちの文化交流の場となるためのシアターになります。

映画のセレクションは、文化の育成を促進しているとの事で、あまりエンターテイメント的な要素の強い作品は多くなく、どちらかと言えば地域のドキュメンタリーや、インディペンデント映画などを中心に上映されるとの事。

なかなか普段お目にかかれないような作品もあり、思わずプログラムを見て、自分の仕事の調整をしてしまいそう.....(笑)

とはいえ、小学校がお休みの水曜日は親子で楽しめるような世界のアニメ映画などの上映も企画しており、上映作品の中には東欧のアニメなどもあり、大人でも興味の持てそうなものが盛りだくさん。

映画が終わったら、サロンでお母さん同士がお話をしたり出来るスペースもあるので地域の活性化も狙っているとか.....

首都パリや他の大都市に比べるとまだまだ文化的施設は少ないマルセイユですが、マルセイユならではの粋なコンセプトを持った新しい施設が次々と出来ている模様。

マルセイユで「列車の次の出発前にちょっと時間があるからちょっと暇つぶしでも.....」なんて思ったら、ここ「RENDEZ-VOUS DES QU AIS」に足を伸ばしてみたらいかがでしょうか？



● L'association cineTilt

<http://www.cinetilt.org/>

● Rendez-vous des quaisS

31 bd d'Athènes 13001 Marseille

<http://rendezvousdesquais.org/>

マルセイユのグルメ会?! ムッシュ・パテ

皆様、お元気ですか？

なんだか本当に雨の多い今年のマルセイユ。 テラスでヴァン・ショー飲みつつひなたぼっこ、と言うのが定番の過ごし方だったのですが、今回は数えるほどしか出来ません。

とは言え、ここ最近は何とか天気の回復も見られ、雲一つない青空も見る事が出来るようになってきました。そんな天気にも恵まれた日曜日の昼下がり、私は「Mr.Pate (ムッシュ・パテ)」の会合に参加してきました。

Mr.Pate.....



マルセイユの自称「食いしん坊グルメ」達が集う会合で「それぞれの土地のものを、それと良く合うワインで食す会」とのこと。参加費用は「土地のもの」と「それに合うワイン」

私は昔農産物見本市で買ったパテと、やはりそこで買った白ワインで参加してみました。山が背景がとてもすばらしい公園の一角の広場で、長いテーブルが持ち出され、Mr.Pateの会は始まります。土地のもの...想像するとなんでしょう？

チーズ.....フランスには1年をかけても食べ切れないほどの種類のチーズが存在します。もちろん土地によって作り方も食し方も違うのが楽しい所。生ハム.....こちらもトロリととろける生ハム達。こう言うのをクルクルっと丸めて口に入れ、ワインで流し込む...最高の贅沢です。

サラミソーセージ.....豚だけでなく、ロバやイノシシもあって、ちょっと変わったものもあり、何となやはりそこは「合うワイン」で試して見るとビックリ!

「う〜ん」とはじめは躊躇してましたが、クリ!なんだかクセになってしまいそう...



←こちらはイノシシのサミソーセージ



生ガキ.....旬の生ガキをその場で開けてもらい、シュルリと舌を滑る感覚はもう病みつき！その後少しだけ貝殻にシャブリ（白ワイン）を入れて、汁まで完食！

→このムッシューが切っているパン、5キロあるそうです。

→アルザスの伝統的なクッキーパンだそうです。これをコ

ーヒーと一緒に頂きました！



↑おいしいワインに、おいしいおつまみ、やさしい午後の日差しに思わずシエスタ。

今回のこの回はマルセイユのパン協会の人の協賛もあり、1つ3キロ以上はありそうなパンドゥカンパーニュや葡萄パン、オリーブの入ったパン等いろいろなパンが所狭しと並べられていました。

この会合、商業的なものは全くなく、単に「おいしいモノを食べたいから、開いちゃおう！」という趣旨の「趣味集まり」なのですが、前評判はもの凄く、雑誌やラジオに取り上げられ、当日はテレビ局も来ていたと言う、かなりのイベント。



←主催者の皆さん。

主催者いわく「今度はこれを持ち込んで日本でやりたいな〜」だそうですよ？このマルセイユ発祥の「Mr.Pate」の会、もしかしたら次はあなたの街で開催かも？！



←アハハハ！

Mr.パテ、オリジナルパン。

羊牧場で誕生日会？

友達のバースディパーティに参加していたところ、他の参加者から手渡された不思議な案内状。
お店の名前は「La Bergerie（羊牧場）」

「牧場？羊でもいるの？」 「ノン！違う～。ここはメンズコンセプトショップなの。」
もっと分からない..... 格好いい殿方が売られている？ 気になる...早速行ってみなくちゃ！
.....いえいえ、そうではありません。実はここ、ギャラリーとメンズファッションのセレクトショップがひとつになった空間。

「結構住宅地にあるのよねー」と言われていた通り、やれやれ、本当に住宅地。周りにはパン屋さんすらありませんよ？ 本当にこの通りで良かったかなー？

.....と歩いたところで出て来たのが真っ白い壁にシンプルな扉。



←知らない、なんだかよく分からないですよ(笑)

看板すらありません。中に入ると洋服がまるでアートのオブジェのように飾られています。

サイズ違いや色違いなどは店員さんに聞いて出してもらおうというシステムらしく、普通のショップとはだいぶ違うスタイル。

ブランドもフランスやイタリアの新鋭デザイナーから、スウェーデン、スロベニア、ベルギー、日本のブランドもあり、世界中のサロンを見て気に入ったものだけを買って来たというオーナーこだわりがたくさん！

シャツやカーディガンはともかく、パンツや靴まで普通のハンガーにかけて飾ってしまう.....これはもはや洋服屋さんの域を超えています！

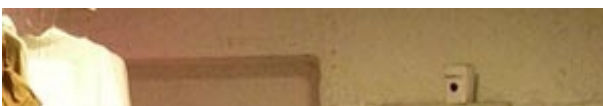
200平方メートルもある巨大なこの空間は元々ガレージとペンキ屋さんのアトリエだった場所を、そっくりそのまま買い取って自分で改造して作ったとの事。



←天井がとても高く、広々していて、白が基調のこの空間にはいくつものヴィンテージの椅子が。

これは「服は着るだけじゃなく見て楽しんでほしい、まるでアート作品のようにね。ルーブルやオルセーにも椅子があるでしょう？」とオーナー。

いすは、北欧から買い取って来たヴィンテージから、マルセイユ・アーティストの作品までさまざまなスタイルの椅子がポツン、ポツンと1脚ずつ置いてあるので、自分の気に入った椅子に座って、心行くまで服や空間を眺められます。もちろん気に入ればその場で椅子も買う事が出来てしまいます。



普段はレジになっているテーブルは、カクテルバーに早変わりしていました。



このカクテルバー、実はお酒だけをケータリングする「出張バーマン」。集まる人数や予算、飲ませたい飲み物の種類やコンセプトなどを伝えるとそれにあう材料とレシピを持って来てカクテルを作ってくれるというとてもオリジナルなサービス。

この日は3種類のかわいいお酒が出て来て、みんな好きにそれぞれ飲んでいました。こんなバーマン一度は頼んでみたい！

ショップ奥のアトリエ・スペースは、椅子の展示会場。「椅子に座って服を見てね」という空間から「椅子を見てね」に早変わり。

このショップ、毎週金曜日にはダンスの先生のアトリエや、カクテル教室など、「服を見ながら何かが出来ると」という企画も催しています。

買い物がてらついでに何かやってみてみたい！と思わず長くいてしまいそうな素敵な空間でした。

イームスの椅子や、アルバーアアルトなど、北欧を中心にした椅子を殺風景なアトリエの中にかざられると、普段は「家具」としての椅子がアートオブジェに変化！



200平方メートルの空間にこういう贅沢な作りができてしまうのはマルセイユならではののだろうかーと感心してしまいました。

もっとこれからこういう面白い場所が増えて行ってくれたらいいなあ、とこっそり願ってやみません。そうそう「なんでBergerieなの？」って聞いてみたら僕のおじいさん、羊飼いなんだ.....」そうです。ホントかな〜????

でも、そうだったらおもしろい！！

- La Bergerie

10 rue Xavier Progin, 13004 Marseille

06 20 65 07 59

www.lesitedelabergerie.com

- 出張バーマンのサイト

<http://pagesperso-orange.fr/ambiancecocktails/>

マルセイユに日本人がカヌーで上陸？！

ある日の事、ニュースダイジェストの編集部から電話があった。「マルセイユに取材に行く人がいるんですが、もし迷惑でなかったら福井さんの電話番号を教えてもいいですか？」 「あ、はい、でもな... (んの取材ですか？と言おうとした時)」 「パリからカヌーで行きますから」 「はい」

それからちょうど1週間後に電話がかかって来た。

「あ、先ほど港に着きました」 「ご苦労様です！でもごめんなさい！ 今日実はマルセイユに居なくて.....」 「では、今日はテントで寝ますので、明日から伺いますね。」 「テ、テント？マルセイユで？」 「大丈夫です、慣れてますから」 「あ.....はい (慣れてる??てなんだ?)」

次の日7時

「タクシーで行きますから住所を教えてくださいませんか？」 「(えっ！こんな早い時間?) あ、時半くらいがいいのですが...」 「ではわかりました、その頃伺います」

カヌーを持ち、マルセイユで住所だけ書いた地図を持ってタクシーを探す姿を想像したらちょっと心配になった。「ああ、多分ぼられるだろうな」

9時45分。

真っ黒い四駆が家の前で止まり、黒人の若い男の人がトランクから大きな荷物を取り出していた。タクシーの標識がない.....しかもどう見てもタクシーの運転手じゃなさそう。(この文章を書いていて気が付いたが、マルセイユで黒人のタクシー運転手は見た事がない) その黒人さんは「Have a nice trip!」と言って、笑顔で手を振って去って行った。と思ったら、私の目の前に日本のおじさんがいた。

「どーもー吉岡です」 「福井です、はじめまして~大丈夫でしたか？」 「何かあの方凄くいいタクシー乗り場を探していたら『オレが連れて行ってやる』と言って ここまでつれて来てもらっちゃいました！」 「えっっ！！！！????」 「しかも、この住所が分からなくて、あの黒探してもらってたんですよねー。それなのにタクシー使わないで.....悪い事しちゃったなー」

「.....何か取られたりとか (あくまで疑心暗鬼)。」 「何にもないですよー。お金払おうとしていないって」 「.....凄い」 「しかもね、港の前で朝ご飯を食べようと席に着いたはいいんですけどメニューが読めないでしょ？電子辞書で色々調べてたら、隣に居た3人のフランスご婦人方が助けてくれて... 4人で一緒にご飯を食べました」 「.....うっ、よかったですねー。何もなくて本当だったー！」

「で、昨日はどこに泊まれたんですか？」 「あ、ビューポートです (旧港)」 「えっ (絶句) ニコニコ嬉しそうに話す吉岡さん。庭へと案内するととても喜んで「カヌーを洗ってもいいですか？」 「もちろんです」 その後、テント、カヌー、洗濯もの、そして自分自身を庭で洗い、芝で昼寝。クリスティン又はあまりにも珍しかったらしく、写真を撮ってるミーハーぶり。



←慣れた手つきで我が家の庭で洗濯物を干す吉岡さん

この日は日曜日だったので、我が家毎週恒例の「ピザパーティ」が開かれる事になっている。そこで私の友人を誘い、あまりにも面白い吉岡サン話に耳を傾けた。



←今までの体験談にかぶせるように 質問を浴びせかける私たちでありました



そして次の日

「カヌーを日本へ送っちゃおうと思ってるんですよー」という話になり「どうせもう使わないならパリまで持って行くより、ここから送った方がいいかもしれないですよ。」

.....ということで、大きさに不可能だと持って行っても無駄になるので、あらかじめサイズを測り、郵便局で尋ねてみた。「問題ないわねー」「わかりました、荷物もってまた来ます。」んは「後は自分で出来ますから」とそのまま別れ、その後は吉岡さんが一人で荷物を持って郵便局に向かった。

その夜

「荷物送れました？」 「やー送れたんですけどねー安かったんですよ！ さっき確認した時に聞いてよりもずいぶん安くて..... あまりにも安いので、ちゃんと送れてるのかな？って ちょっと心配なすけどね。」 その金額、私が聞いたもののおよそ1/4だった。

「ちょっと不安ですよ.....書類、見せていただけますか？」 見せてもらった書類を見て納得。完全にはかり間違ってる...なんと表示されていた重さは実際の半分以下！ 120cmの荷物はきっと乗り切らず地面に着いたままの計量だったので、そんな重さになってしまったのか..... とにかく優先便で30キロ近い荷物がほぼ国内くらいの送料で送れてしまった...！

吉岡さん、3日間でもかなりマルセイユを謳歌してます。こんなにもマルセイユでいい目に遭って人もいないんじゃないかな？

最後の日は、マルセイユ名物？！（マルセイユ自慢 参照）で買った身の引き締まったマグロと鮫を庭でバーベキューに吉岡さんの送別会。



我が家のもう一人の日本人・増子君が腕によりをかけてマグロを生薑と出汁と醤油で漬け込んで絶妙な焼き加減でサービスしてくれました。これには吉岡さんも思わず顔がほころんでいます。中海マグロだねー」

↑「魚、久しぶりなんだよねー」と思わずなる吉岡さんでありました。



↑いい具合に網焼きになったマグロ。吉岡さん、満面の笑顔です！



←もう一人の同居人シリア人のヒバとも 英語でコミュニケーションをとっていた吉岡さん..... さすが！

カヌーを続けて30年以上、プロにならずあくまでも趣味で続けて来たと言う吉岡さんの話を聞いて凄くうらやましかった。「私も何かしてみたいです、でなかなか見つからなくて」「これからじゃないですよ！君たちはまだ私の半分も生きてないんだし、私はカヌーを始めたのは39歳の時ですよ」「えっ？」あるんだから、これから何でも出来るでしょう！が

んばってね」 そう話されていた吉岡さんの言葉に凄

く感銘を受ける私。

そして笑顔でマルセイユ中央駅「サンシャルル駅」からTGVに乗り、ニュースダイジェストのあるパリへと戻って行きました。

→生き生きとした笑顔でマルセイユ中に何かを残して行ったと思われる吉岡さん。

「危ない・危険！」とされているマルセイユで（否定したいけど...やっぱりまだ他の地域に比べると治安がよい方ではありません）何事もなく、むしろラッキーな事に遭遇してばかりの吉岡さんには、きっと「ピンチをチャンスに変える力」を持ちつつ、まわりの人に影響力を与えるオーラを持っているのかもしれない。 そう言う人と出会えて、お話を聞いた事だけでも凄くよい経験になりました。 ニュースダイジェスト編集部の方のおかげです！ いつかまた是非来ていただきたいと、私を含め、関わった全てのマルセイユ人は思っております。

ところで何の取材で来たんでしょかね？吉岡さんは.....

皆さんも気になるところだとは思いますがそれは、9月号のニュースダイジェストのお楽しみです！！！！



マルセイユ自慢

マルセイユ人による、マルセイユを紹介する特産の本が出版されたらしい。「なに？これは行くかくては！」マルセイユのアンテナを常に張り巡らせている私はすぐに出版イベントパーティに出向いた。（もちろんその招待状には「マルセイユのお味をご賞味いただけます」と書いてあったし！）

行った書店は小さな道にひょっこりとある赤い外壁と店内が可愛いお店。「Greffier de Saint Yves



↑あれ？よくよく見ると「G」がクロネコになってます。可愛い

この書店は元々法律関係の本をメインで取り扱っていたのですが、目の前に日本雑貨屋さんがある事から、少しずつ日本のものを取り扱って行くうちに半分くらいが日本関係の書籍になってしまった.....（という事でよく出入りしている私）

話を元に戻し、このイベントのレポートをしましょう。今回紹介されていた本はこちら。

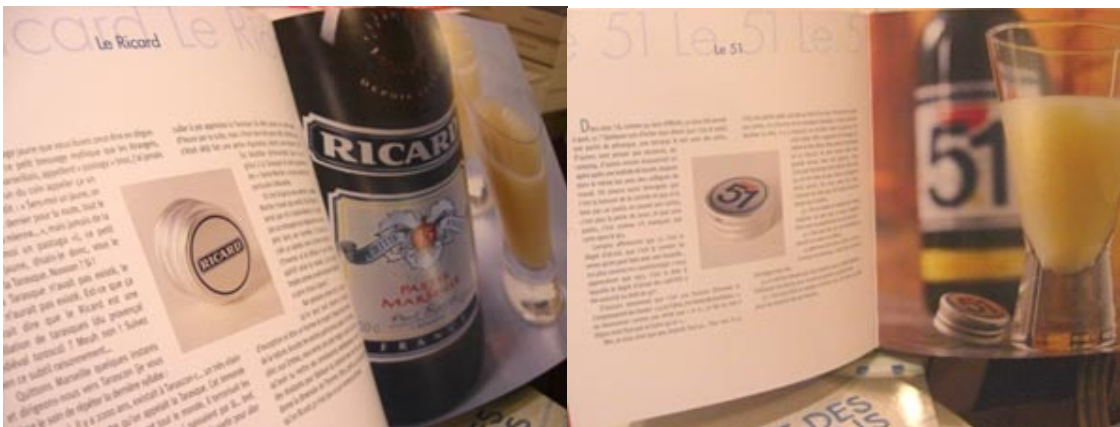


← Le goût des marseillais (マルセイユのお味)

プロバンス料理やレシピだけにとどまらず地元で売られているマルセイユならではのプロダクツも紹介しています。



←こちらがもう、皆さん誰でもご存知ですね、のブイヤベースの紹介



↑51とRicard、パステイス飲むならどちらがお好みか、分かれる所...

さてさて、こちらは「マルセイユに来たら飲んでおかなきゃ！」のCAGOLE。訳すと「ギャルビール」軽い舌触りでなかなかおいしくごくごくごく...



↑セクシーな唇を開けると出て来るものは...?!

そしてこちらは知る人ぞ知る？マルセイユの隠れた名物ソフトドリンク（マルセイユに「ソフトドリンク」を飲む人がいるのか？という話はさておいて...）FADAシリーズです。



↑おばさんコーラとフルーツ風味（ファンタみたいです）

他にもタップナードやナヴェットなど、「The マルセイユ」の特産がぎっしりとつまって紹介されています。ライターさんのとてもユーモラスなテキストで思わず「むむ...一度食べてみたい」なんて思ってしまう。

そして紹介されているもの全てはここで試食が出来るのです（やった！）



私も思わず1冊購入し、日本にいる家族へと送ってしまいました。次の帰国の際に「FADAコーラ買って来て！」なんて言われぬかどうか心配です。

今年も残す所後わずか。みなさまもクリスマスの準備に、年明けの準備にお忙しい事かとは思いますが、是非健康に気をつけて楽しい年末年始をお過ごしください！

→マルセイユのおばちゃんも、張り切って皆さんを応援していますよ！

カラオケおばちゃん...)



● Le poisson d'avril
(Le goût des marseillaisの出版社)

<http://www.studio-poissondavril.com/>

● 書店

Le Graffier de Saint-Yves

10, rue Venture 13001 Marseille

TEL: 04 91 33 69 18

寒さも遠のくウニ祭り

とある日曜日、ローカル列車に乗り込み15分もガタガタと揺られると視界が急に開ける。そこは見渡す限りの地中海ブルー！！



.....と言いたいところですが、あいにくこの日のお天気は曇り。雨は降っていないものの寒さも半端なくまだまだ春は遠い。

本日はマルセイユからローカル列車で30分くらいの所からのレポートです。こちらです。



キャリー・ル・ルエ（Carry le Rouet）。

「2月」「日曜日」「キャリー・ル・ルエ」の3つのキーワードにピンときた方はかなりの南仏通。とある祭りが開かれるため、Carry le Rouetでは寒い2月にもかかわらず小さな港町が人であふれます。その名も..... 「Oursinade de Carry-le-Rouet（キャエのウニ祭り）」。

「2月はウニが旬、この小さな港で捕れるウニをみんなで食べよう！」という祭り。マルセイユにも魚介類を売るお店はいっぱいあるけれど、どうせなら

お祭りで食べようよ！ということで、遠足気分で足を延ばしてみました。

→大人も子供もみんなにぎやかに食事を楽しんでいます。

本日の気温5度、曇り空.....

朝は若干雪さえちらつく、という天気だったのにもかかわらず、この人！



まず入り口にあったのはパン・デピス（香辛料入りパン）のスタンド。「実パン・デピスと魚介類は合うんだから！」と言って、完全防寒で営業をしていたマダム.....。なるほど手作りだけあって味も香りも天下一品。

→「ここは南仏？」の着込みよう。そのくらい、この日は寒かったのです。

更に奥へと歩いて行くと、そこからはもう「ウニ！ウニ！！ウニ！！！」

見渡すばかりのウニスタンドです。その中でもひととき目立っていたスタンドのムッシュ。このムッシュは私たち（日本人4名、スイス人2名、コロンビア人）のことを「フランス語が分からない」と思ったらしく、すさまじいジェスチャー



で「ウニを試食しろ！」と無言で一口スプーンですくって食べさせてくれました。

あまりのまろやかさとちょっと利いた海の塩が口いっぱいに広がり、しばし違う世界にトリップ……。口の中でとろけるウニにもう虜。



「バチッ」「バチッ」とウニが割れる音がリズム良く聞こえてきます。「今年のウニはどんな感じですか？」（ろん通年のウニなど知らない私）「いいよ、今年は大漁 実もぶりぶりしているよ、ほら」



↑それにしてもすごいさみ...これで真っ二つに切って食べます。

店頭販売へ行くとお皿にウニがてんこ盛り。



ウニの隣には、同じく旬のカキも並べられていました。



でも...

「ウニとカキだけではお腹にたまらないねえ……」と歩いていくと、とても香ばしい香りが漂ってきます。



↑「パエリア」「漁師のパスタ」「タコのトマトソース和え」など、メニューには魚介類が盛りだくさん。

それにしてもこの大きな鍋と湯気…… 神社のお線香置き場を思い出してしまいます。

そして突っ込みどころのありまくるこのイラスト……

さんざん迷ったあげくにチョイスした私たちのランチはこちら。

イカのトマトソースリゾット イワシの唐揚げ カキの盛り合わせ ムール貝とフライドポテト



みんなで大はしゃぎしながら食べたので、すっかり寒さも遠のき、すべてをおいしくいただきました。

このウニ祭り、毎年2月の日曜日に開催されています。もしこの時期にマルセイユに来る機会がありましたら、ぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか？ 冬には珍しい楽しくておいしいお祭りです。



追伸： やっぱりウニといえば……

で持参したしょうゆとわさび。

日本人には欠かせませんよね～（笑）。

● Carry le Rouet

マルセイユからMiramas行きのローカル列車に乗って30分。

駅から港へは、歩いて10分程。

「スベリ」はOK?

面白いと思って、友達におもしろおかしく話すとイマイチな反応。「あれ?もしかしてスベっちゃった? やっちゃったなあ!」と思うこと多々なのですが(笑)、そんな時ちょっと恥ずかしい気持ちになりますよね.....あはは。できれば避けたいシチュエーション。だけどマルセイエーは自ら「スベリ」に走っちゃうんです。

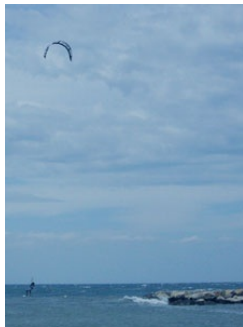
「え?! マルセイエーってそんなに自虐的なの?」 いやいや、そうじゃありません(全否定はしませんけど.....)。今回はマルセイエーの大好きな「スベリ」について紹介します。

この季節を中心に年中行われてるマルセイユ「スベリ」とは、スケートボード、カイトサーフィン、ウィンドサーフィンのことなんです。どれも「横乗りスポーツ」と言われることもありますが、波の穏やかな地中海だとどうしても「横乗りスポーツ」の代表格であるサーフィンは難しいので、私たちはあえて「滑(スベ)リスポーツ」と呼んでいます。(カイト、ウィンドサーフィンは「THE・マルセイユスポーツ」の代表格であり、逆に他の地域ですることは少し難しいのです)

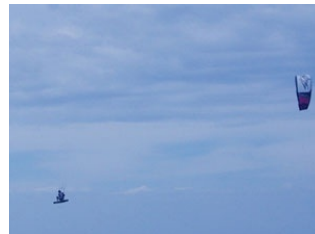
海を眺めていればスキーのごとくにシュプールを勢いよく海に描くウインドサーファーたち、突如視界に入るジャンプシーンを決めたカイトサーファー。空中を回転したり、波しぶきをあげて地中海をすべる姿に思わず目を見張ります。



この日は「ミストラル」と呼ばれるマルセイユ特有の強風が吹き荒れる一日でした。気持ち良さそうなシーンに思わず好奇心がわいてきます。



こんなに長く上がった風がサーファーを支えているのです。そして.....



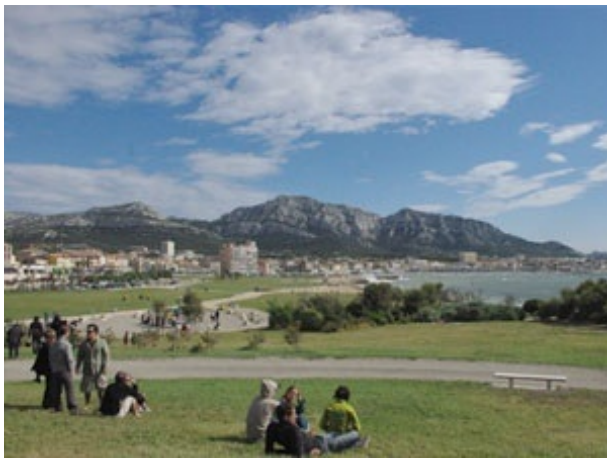
いきなり風と平行になるかのごとくにジャンプ!

今回私がこのスポーツを見るきっかけになったのは今年で3回目になる「Freestyle cup」と呼ばれる大会。この3つのスポーツで、それぞれ優勝を競い合います。参加者はもちろんマルセイユの人が多いのですが、「W杯!」と言い張るところからも分かる通り、ブラジル、カナダ、イギリス、デンマーク、ドイツなどから参加する人もいる大きなイベント。中には「イタリアからスケボー担いでベスパで来ました」なんて言う強者も!

イベントの最終日、私たちはスケートボードの「ファイナル」を観戦することに。この3日間で勝ち抜いてきた12人が最後のプレイを繰り広げます。6人ずつ会場に入り、まずソロでプレイし、その後全員でどれだけ素晴らしいテクニックを見せられるかを競います。ラッパーが実況中継をし、BGMはDJがその場でミックスします。実況とDJのライブ感が彼らのプレイをさらに白熱させました。



坂や湾曲を利用して回転したり高い所まで登りつめたり.....！最初は転んだ時に痛そうに見えるだけなのに、だんだん目が離せなくなってきました。3メートルくらい飛んでる人もいました。そしてなんとと言ってもプレイ後最高の笑顔！ただ顔のばんそうこうが痛々しそう.....。



ちなみに私、全くスケボー（滑りスポーツ）に興味がなく、これまでこの大会があったことすら知りませんでした。今回たまたま聞き「え？すべり？何だそれ！」と興味津々で参加してみたのですが、これがまた面白いんです。ウインドサーフィンとカイトサーフィンは遠くから見ていただけでも「一度やってみたいなあ！」と興奮してしまいます。見慣れたスケボーも青い空の下に広がる海を見渡しながらすと、また違ったものに見えます。

— 飛んだ時に彼らが見る景色はこんな感じ？（会場の後ろ側の景色です）

ところで、今回スケボー大会で驚いたのが子供率が高いこと！「何となく来ちゃいました」といより、トータルファッションで魅せながらプレイしてる姿になんとか感動すら覚えました。カイトサーフィンとウインドサーフィンは「地域スポーツ」だから理解できるとしても、どこでスケボーを覚えるのかしら？マルセイユっ子といえばサッカーじゃないの？街のあちこちでサッカーをやってる姿は見るけれど、スケボーはどこでしてるんだろう？



トーナメント終了後、主催者の人と少し話をしてみました。

「今回のファイナルはさすがに全員大人の人だったのですが、自由時間や練習時間は小さい子供がいて感じました」「あ、気が付いた！マルセイユにスケボーの学校あるんだよ」「知らなかった！」「でしょ。ちなみにオレ、先生だから」「え！本当ですか」「本当さあ〜。（生徒は歳までいるよ）」「幅広い.....」「今度授業見に来る？今ね、すごく流行ってるんだよ、マルセ。生徒も200人以上いて、キャンセル待ち」「是非お願いします！」

ということで、この話は次回へ続きます。

最後は、会場をアペリティフ・バーに替えて、参加者、スタッフ、お客さんとみんな一緒に日の入りを楽しみます。ちなみにこの会場のグラフィティ、初日に有志の人たちが集まり、スプレーで書き上げた今大会のための特別デザインなのだそうです。すごく上手！



それにしても、始まったばかりの夏！ 海でのんびり泳ぐのもいいけれど、一度は海と戯れるスポーツもしてみたいなあ。「せっかくマルセイユに来たんだから、1回スベってみたい！」となんて自虐的な方（笑）は1日体験授業もありますよ（連絡先下記参照）。バカンスで今までにない「スベリ」を体験してみませんか？



試合の結果、優勝は次の3人になりました。

オメデトー！



.....ところで
この話、
スベってないといいのですが（笑）。

● 大会の詳細

Orange Freestyle cup

● カイトサーフィンの学校

www.massiliakiteschool.com

うららかなマルセイユはいかが？



冬の間掃除以外は閉め切っていた窓も開けてみるとあたたかな風が入って来てとても気持ちがいい。昼にテラスに出るとなんだかそのままうとうととしてしまいそうなほど気持ちのよい日差し。マルセイユにも春がやってきました！夏時間も今月末に適用され、これからは一気に夏へと向かって行くのでしょうか。マルセイユは夏が長くて冬が短いと言われます。夏のお楽しみはとにかくビーチ！海で泳ぎ、ピクニックをし、青い空と乾いた空気、ちょっぴり強い日差しを

パラソルの下で満喫するのがマルセイユ。

そんな今の季節を彼らは「春」と言わずに「夏ちょっと前」と呼ぶのです。それだけ彼らは夏を待ち遠しく思っているのですが、「春」ももちろん過ごしやすい季節なのです。個人的には、サングラスの欠かせない夏よりも今のこの時期の方が外へ繰り出してピクニックやら外でお昼寝やらが簡単に出来ているのですが...

春の始まりにはミモザが咲き乱れます。我が家の庭にもミモザの木が。

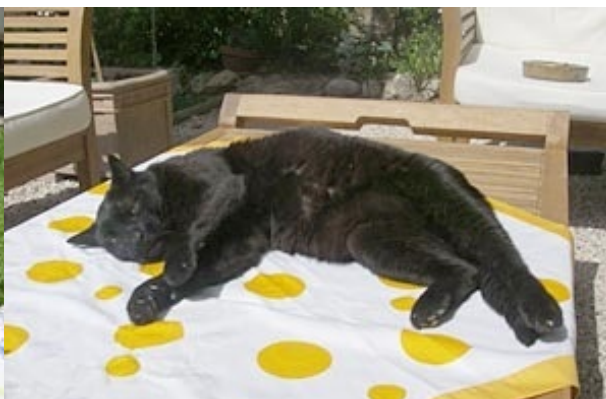
これは3～4年前にもらった種を蒔いてみた所こんなにも育った、と言うエピソードが。下から見るとこんな感じで溢れんばかりに垂れ下がっています。

→マルセイユには残念ながら桜がないので、ミモザを見つつロゼでカンバイ



この頃から「キンキンに冷たいアルコール」の消費量が半端じゃなくなります。その代表が氷を入れたロゼとパスティス...（パスティスはもうこのマルセイユ記事で何度も登場していますね）そんな「お花見」最中に目の前ではクレモンズ（5歳）が待ってましたとばかりにおままごとを始めます。冬の間は暖炉のそばでパズルをしたり、絵を描いたりしていたのだけど、ここ最近ではコートも要らなくなり外で遊ぶ機会が増えて来ました。

！そう言えばこの前水着を着ようとしてお母さんに「まだ早すぎる」と、止められていたっけ...



後ろでは「敵」がないのを確認した後の無防備な我が家のクロネコが昼寝。触ってみると日差しで暖かくなっている...↑

このままのんびり庭でくつろぐのも素敵だけれど、休日くらい街へ足を伸ばしてみるか、と海の方を散歩する事に。通りがかったカフェはつい先週までテラス席にはまばらにしか客がいなかったのに満員になっている！どのテーブルにも空いたビールグラスが置いてあり、昼間から「春のうららかな休日の語らい」をエンジョイしている模様。



それにしても、まだダウンを着ている人もいれば、ランニングの人もいて、全く季節感の分からないショットになっています。まだまだ北は寒くて雨模様の多い季節だと聞きますが「夏ちょっと前」のうららかな暖かさを求めて少しだけマルセイユにやって来てはいかががでしょうか.....

もうすぐ秋

6月の終わりから、7月にかけてまるで茹で上がるような暑さだったマルセイユ。

普段は雨が少ない土地柄なのでカラリとした気候に太陽が照りつけるのですが、今年は春に降った雨が影響してか蒸し暑い日が多かったのです。

それでも、日本の立秋(8/3)を過ぎた辺りから、本当に少しそのぎらつくような日差しが和らぎ、吹く風はどことなくひんやりとして来ました。

もう、秋はすぐそこなのかもしれませんね。

フランスでサッカーリーグが始まると(8月の2週目)、水着をしまってユニフォームに着替えはじめるのはマルセイユだけでしょうか？

マルセイユではそんな残暑を惜しむようなイベントが盛りだくさんです。

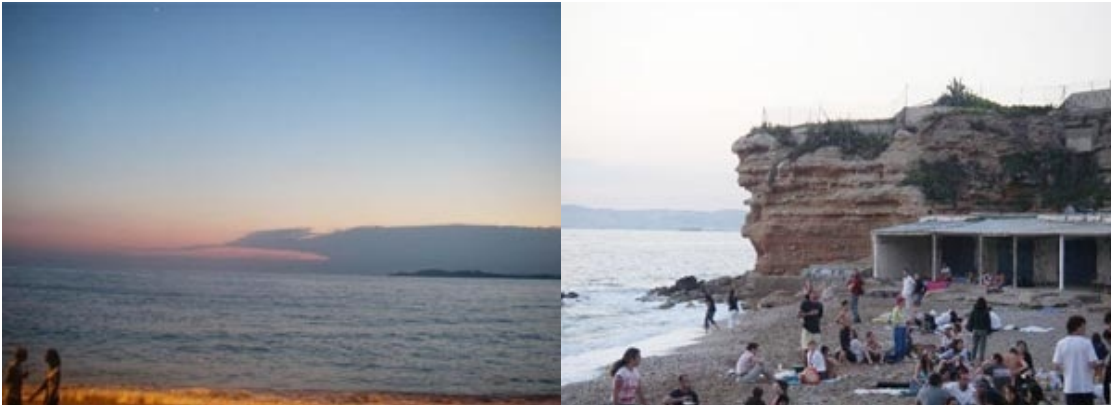
「夏を終わらせてたまるか！アア！」

とばかりに海に駆け込むマルセイユ。

先週も「残暑を楽しむイベント」が行われて、ちょっと足を伸ばしてみました。マルセイユの端っこにあるビーチ「pointe rouge(ポワント・ルージュ)」には、cabanonと言われる小屋が軒を連ねています。

以前は漁師が船をしまっていた小屋だったのですが、いつしか個人所有のクルーザーをしまったり、別荘(!)として使ったりするようになり、単なる倉庫ではなくなっています。

今回はこのcabanonの所有者たちが集って開催するソワレに潜入です。



↑写真の上の方に白い点がありますが、一番星です！

ほんの1~2カ月前は昼間のように明るかったこの時間帯も既に日が沈みはじめています。でも彼らの夜はこれからです。



10軒近くあるcabanonの所有者たちがミュージシャンを呼び、コンサートを開きました。近くのビーチで遊んでいた人々も心地の良いサクソ音に耳を傾け、次第に身体をゆらしてビーチで踊りだします。



夏休みを満喫している子供たち。今日の夜更かしは無礼講？ ちょっと冷るなあ、なんて私は思ったのですが、子供たちは元気。

こちら、cabanonの中。こちらでは「ソワレの会場



」として使うようにcabanonを購入したとの事。さすがマルセイエ、RECARDのグッズが！



このソワレはおよ

そ2時まで続き、帰り際、海に照らされた月を見つけてシャッターを切ってみました...ちょっと分かりづらいですね。

そんな風に夏を惜しみつつも、秋の準備をするマルセイエたち

。

夏の疲れを秋に持ち越さぬよう、皆様も体にはお気をつけ下さいませ！

マルセイユに大異変？！

朝起きて.....窓をちらりと見て見ると空から灰が.....

「誰かの家の煙突からかしら？」

眠気マナコでもう一度見て見ると...

雪！



後から、後から降ってくる雪にビックリ！

マルセイユは南仏ですよ？

20センチくらい積もったらしいのですが、この記録実は1987年以来とのこと！これにはマルセイユー達も驚き、そして喜びました！

「え？なんでお父さん平日に家にいるの？」

「え～？多分地下鉄ないから仕事行けない」

はい、地下鉄は途中から閉鎖されてました。

「あれ？お母さん、今日バーゲンで町に出るって行ってなかった？」

「車が滑るから町まで行かれない」

交通渋滞がもの凄く、通常20分の所が2時間かかったようです。

お兄ちゃん学校は？」

「学校に行ったら先生が来なかった.....。」

先生が「雪だから誰も来ないだろう」と思って、学校に来なかったらしいです。

..... (^_^;)

普段から「雨が降ったら仕事に行かない」とされているマルセイユー。

この機会を逃したら、次はいつ遊べるか分からない！ だったら楽しんじゃえ！というのが彼らの考え方。

道を歩いていたら、全く知らない人に雪の球を投げられたり、道にセクシーな雪だるまを作り始めたり..... そういう「ラテン的な考え」に触発された私も、今日の仕事は休み！と決め、庭に駆け出し、子供と一緒に遊びました。

庭一面の雪景色、まずは雪合戦。

はじめて庭で雪合戦をするクレモンス(6)は、朝から大はしゃぎ！「こんな雪降ったのは、高校ぶりかなー」というお父さん、後ろでベストショットをとるのに必死。

そして雪山を作る事になりました。日仏共同作業？！



その山に穴をくりぬいて行って、出来たものとは？



かまくら！

雪でかまくらを作る、という発想にフランス人（というかマルセイエー？）には新鮮だったようで、このかまくらをみた人達はオドロキを隠せない様子でした。かまくらって、日本だけのものなのかしら...？



夜も更けたら、オトナのかまくらの時間。ろうそくを炊いて、グロック（ラムのお湯割り）でも飲みましょう！

グロックは、最近個人的にブームのカクテル。

本当は、風邪を引いた時におばあちゃんが作ってくれる、日本でいうと「卵酒」のようなものらしいのです。

どこのカフェにもこのグロックはあり、寒いカフェのテラスでもこれを飲めば身体が温まりますよ！どこでも簡単に作れますので、お家でも試してみてください。

今年は本当に異常気象で、「今年は雨が多いし、冬は寒いし.....変だなー」とは思っていました、まさかこんな雪になるとは！

2009年ちょっといつもと変わった年明けになった、マルセイユでした。



★ おまけ ★

グロッグの作り方

ラム：お湯=1:1

レモン少々

シナモンスティック

砂糖（お好みで）

ラムと熱湯を半分ずつグラスに入れる

レモンをキュッと絞って、お好みで砂糖を加え、

シナモンスティックでかき混ぜます。

できあがり

マルセイユが大変身？

マルセイユは今急速に動いています。 リヨン、ボルドーなど並みいる競合の中「2013年ヨーロッパの文化首都」として選ばれたのです。

「マルセイユが?!」 「え?ここ?」 「文化とか?何それ!」
オドロキを隠せない住民も多々居ます。 もちろん私もその一人でした。



このマークが街中至る所で見られます。

ですが、マルセイユ市、州 (PACA)、フランス、そしてヨーロッパが2013年に向けてかなり大掛かりなプロジェクトを立ち上げ、それに向かって急速に工事を行っています。

3カ月前に見た広場には既に建物が出来ていたり、先週末であった学校が立て直しのために空き地になっていたり.....。

↓そのプロジェクトを取り仕切っているのがこのEUROMEDです。

日々新しくなっているマルセイユを見ると、なんだかアメリカの開拓地に居るような、そんな気分で、鳥肌が立ってきます。

さて、本日はそんな2013年に向けて一般公開をしたMuCEM (Musée des Civilisations D'Europe et de la Méditerranée)をご紹介します。



このMuCEMは、長年考古学や海軍の保管により、今までは外観のみを見学する事しか出来ませんでした。2005年より一般公開が可能になりました。それからは、2013年のプロジェクトのための催し物をはじめ、夏には野外映像祭や音楽祭などを企画し、一般客のために使われています。

外観は残しつつ、中をリフォームしただけなのでなんだか殺伐としたイメージが拭えませんが、木造の博物館はなかなかオリジナルですよ。



たまたま行った日は「マルセイユの船着き場をどう変えてみるか」と建築学生によるエキスポジションが行われていました。



10個のグループに分かれ、いろいろな提案をしていたのですが、私が特に気に入ったものはこれ。



イワシの船着き場...笑 こういう遊び心のあるユーモアさも街に残しておいて欲しいですね。



←常設展にはマルセイユの歴史が壁一面に描かれています。

外は...まだまだ閑散としたイメージが拭えません。

夏に来た時はバーや屋台がたくさんあって、盛り上がった風なんだけど。

「ここは何もしないの？」

「特に作る予定はないね」

「寂しくない？」

「まあ、何かソワレがある時に建てればいから、通常はこのまま...そうですか(笑)」



このSaint-Jeanから見える景色はまた格別です。今の所工事も多く(もちろん2013年に向けて!)少しお見苦しい所もありますが、このバジリカ教会がここまできれに見えるのはここだけです。

一番の観光地Vieux Portからさほど遠くない場所にあるので、もしマルセイユに足を伸ばされた際には是非訪ねてみてください。

● アクセス

Vieux portから海に向かって右側を海沿いに歩いた先にあります

● 地中海とヨーロッパの文明が解る美術館

MuCEM

Promenade Louis Braquier 13002 Marseille

TEL : 04 91 91 84 57

www.mucem.eu

変わりゆく第2の都市

マルセイユは港町。 荒くれ者の集う場所。

そんなイメージがいつでもつきまとうマルセイユなのですが、なんと！ 2008年9月にマルセイユは2013年の欧州文化首都に選ばれました。

これはヨーロッパの文化の活動を世界にアピールするという企画の舞台になります。2013年の1年間は海外からたくさんの人を誘致し、展示会や、研究会などいろいろなイベントが企画されています。

そんな企画の中心となって動いているのがEuro méditerranée（ユーロメディテラネ、以下ユーロメッド）という組織です。今回はそのユーロメッドが拠点を置いている地区、ジョリエット（joliette）のご紹介をしてみます。

ユーロメッドは元々マルセイユの再開発を目的に設立された組織で、10年ほど前からこのジョリエットを中心とした約500ヘクタールの区域の再開発を任されているのです。ここは昔は何もなく、ただ廃れた新港で、アルジェリアやモロッコ、コルシカ島へと向かう船着き場であり、お世辞にもあまり治安のいい場所とは言えませんでした。

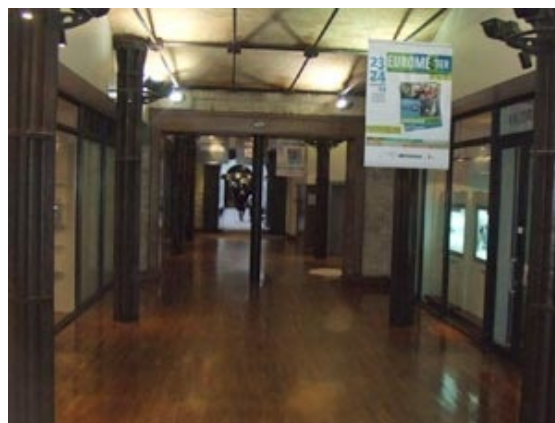
そこにいきなりそびえ立つこの建物、これはドックと呼ばれる船の建造や修理のための倉庫です。



外壁はそのまま間昔使われていた倉庫のまま残しています……が、中を一掃し、今はオフィスやテナントが入るような立派な商業施設へと早変わりしたのです。



←この入り口、まるでホテル？



中に入ると落ち着いた木彫りのオフィスになっていて、ちょっとしたカフェやレストラン、ショップなどもあります。中にはユーロメッドの本部をはじめ、銀行、旅行会社、流通など様々な会社がオフィスを構えています。

さすが、元倉庫だけあって天井が高い！



そして建物と建物の間には、やはり昔の面影が残っています。




ユーロメッドの一般客用に開放されたオフィスです。

中にはマルセイユが全て見渡せる模型図が展示されており、この10年でどのような建物が出来たのか、これからどのように変わって行くのかが一目で分かるようになっています。



2006年よりトラムウェイも走るようになり、この建物の目の前が終点になっているので、なかなか便利です。これに乗ると、皆さんご存知Vieux port（旧港）まで一直線に来る事が出来ます。

ちょっと前までは「行ってはいけないリスト」に入っていたような気がするこの地区ですが、今では「マルセイユのデフォンス」と言われるほどになっていますよ。（デフォンス＝パリ近郊の新開発都市）3カ月後、半年後、見る見るうちに変わって行くマル

 セイユのjoliette地区、今後も楽しい企画が目白押し

です。

- Euro méditerranée

Metro2番線 Joliette下車

トラム 1 番線 Joliette下車

www.euromediterranee.fr

マルセイユの名物

「食」と「なまり」を一度に味わえる場所！

南の街からこんにちは。

マルセイユは地中海に面した南仏最大の街。この海の向こうはすぐにアフリカ大陸、昔から貿易港として栄え、今でもいろいろな移民が暮らすコスモポリタンな港町です。

他の街に比べるとちょっぴり危ない雰囲気もありますが、地元マルセイユの人々は「マルセイユに居るのは、みんなマルセイユ人だ！」と笑顔で迎えてくれるので、すぐにこの街になじめてしまうのです。青空の下で片手にパスティス持ちながら、マルセイユなまりでガラガラおしゃべり。こんな「マルセイユスタイル」がいたるバーで見受けられるのです。

さて、このマルセイユを紹介するにあたってまず一番「マルセイユらしいものは何か……」と考えてみますとやはり「地中海で獲れる魚」かなと。

世界三大スープの1つ、ご存知「ブイヤベース」はマルセイユのご当地名物として知られています。いろいろな店で「ブイヤベースなるもの」を出していますが、実は規定に沿って細かく決められているのです。

★「食べる魚」は、地中海で獲れるものにかぎられ、海老や貝類は入れてはならない。

★これらの魚を4種類以上は必ず使う事。アナゴ、ハウボウ、カサゴ、マトウダイ、タラ……etc。

★「スープの出汁」は小魚でとること。(この小魚の種類も決められている)

とまあ、こんな具合なのですが、実は地元の人たちはあまり食べていないのが現状。どうやら観光客のためのお料理、といった感じですね。

それでもマルセイユの人々は魚が大好き！ 毎日「vieux port (旧港)」の付近では魚市場が軒を並べ、その日に獲れた新鮮でおいしい魚を安くご提供！

今回はそんな魚市場にカメラを向けてみました。



地下鉄1番線の出口を出るとすぐに魚市場があります。この日もいつもの通り青い空にカモメがにぎやかに飛んでいます。「どれどれ、今日の魚はイキいかな…」マルセイユおじさん達は魚を冷やかしはじめます。

並べられた魚。よく見るとびちびちはねていたりして「まだ生きてる！」とビックリ。たまにそばを歩いていると魚のしっぽではねた水が顔にかかる事も...(笑)「ほら、新鮮でしょ？アア〜？」と魚達をじっくり吟味する売り子のマダム。





こちらのスタンドはちょっとグロテスクな魚を扱う所。これはアンコウかな？目だけがギョロギョロ動いていました！

そこへ漁を終えたおじちゃんが帰ってきました。「ほら、また獲れた、今日は大量だなあ、アア〜？」先ほどのマダムに獲れたての魚を渡しています。

「メルシーアア〜？」とマダム。



なんと、こんなにぴちぴちで1キロ1ユーロ！！隣の魚はマルセイユでよく見かける魚です。

「おう嬢ちゃん、写真撮ってるのかあ、アア〜??カッコ良く撮ってくれよな、アア〜？」この「アア〜??」はマルセイユなまり。

一度聞いたら忘れられないなまり.....、普通のひとはともかく「漁師」「大工」など、「ガテン系」の職業に就くひとはとにかくなまりが強い！

「マルセイユなまりは何を言ってるか全然分からない！」という人がいるけれど、気さくな喋り方なので、何となく通じてしまう事もしばしば.....。マルセイユに来たら一度はこのなまりを聞いて欲しいです。

魚と同様、この「なまり」もマルセイユ特産の1つです...

「ほら見て、えらの部分新鮮なのよ！お安くするわよ！アア〜？」と、写真を撮りながら立ち話をしていたら何となく手ぶらじゃ帰れない雰囲気になり... 1キロ買ってみる事にしました。

いながら12匹も！！



どうやって料理しようかな...♪

今回買ったのは「pageot」という魚。日本名は分からないのですが、白身魚です。

今回はプロバンサル風グリルにしてみました。



レシピ（すべて適量）

- pageot (白身魚なら何でも大丈夫...鱈とかおいしいです)



- トマト
- レモン
- タマネギ
- オリーブオイル
- プロバンサルハーブ
- 塩こしょう

1. 白身魚をトレーに載せ、水分を取る。
2. まんべんなくレモン汁を振りかける。
3. スライスしたタマネギをチラシ、その上にトマトの輪切りを乗せていく。
4. プロバンサルハーブと塩こしょうをふりかける。
5. 熱したオーブンで15分くらい焦げ色がつくくらいに焼く。

ライスと一緒に召し上がれ！アァー？(笑)

いかがでしたか？今回のマルセイユ。 青い空と透き通る海、人懐っこいマルセイユ人の日常をこれからもお伝えして行きますので、宜しくお願いします。

● 魚市場へのアクセス

メトロ1番線(青いライン)Vieux Portにて下車。改札を出て右側の階段を上るとすぐ。

※平日午前中開催しております

親指クン、Macでヒッチハイク？

「今度ね、私の作品が展示される事になったから是非見に来て～」とは、マルセイユのボザール（美術学校）に通っているお友達。

「へえ！すごいねえ、行く行く！どこ？」 「Mac（マック）」 「へえ、また何とも変わった所で私の頭の中はマルセイユで一番大きな通りにあるマクドナルドだった。最近工事をしてオシャレになる、ともっぱらの噂だったから「コンテンポラリーアート」のような作品も飾るんだろうなあ..... それにしてもすごい！さすが「アートの国おフランス」ですわ。マクドナルドにアート作品ねえ.....

「なんか、レイコちゃん変な事考えてません？」 「え？Macってマクドナルドでしょ？」 「やっ Musée d'Art Contemporain」、略して"Mac"です！」 「...。」

いやはや！ おかしいとは思ってました。でも皆さん、きっと私と同じように思いましたよね？（関東の皆様！）（マクドナルド＝関東：マック 関西：マクド）

と言う事で、マルセイユにある（残念ながら）数少ない美術館へと足を運んでみました。バスに乗って10分少し中心街からはなれた所にあるらしいその美術館。バス停を降りて少し歩いてみると突如ビタミンカラーの塀に「Mac」の文字。これが.....



「オシャレ！」にはちょっと疎いマルセイユでこれはなかなかオシャレなのでは？ 入り口近くにまわってみますと...



間違いなく.....ん？ Musées（美術館）がmuse s（女神達）に！ 併設しているカフェはその名も「Mac Cafe」 確か最近日本に同じ名前のカフェ、出来てますよね... と言う事で、一号店はもしかしてここ?!（そんなはずない）60'sの装が可愛い小さなカフェです。

後ろを振り向くと 「あら？掃除の途中かしら...」

いえいえ、実は立派な「美術オブジェ」でございました。



あ、受付の人なんだかのんびりやっていますね。

このポスターの企画「Marseille Artistes Associés」は残念ながら3月一杯で終了。次は5月の中頃から新しい企画が始まるそうなのでお楽しみに！との事でした。（4月～5月中旬は閉鎖しているのでお気をつけ下さい！）

さてさて、美術見学を終え、Macを一步出てビックリするのはこれ。



えーと...もしかして「あれ」に似てますよね？ 「でも違うかしら...まさ



かね」とお考えの皆様



やっぱりそうです、親指です。

はじめてみた時には「ヒッチハイク公式スペース」だと思いました。車の通りが多い所に突如現れた親指。

これは一体？！

実はこれ、20世紀後半に活躍したフランスの現代美術家、セザールの作品なのです。マルセイユに生まれてマルセイユのボザールに通っていた彼の

作品がここ、Macの前にそびえ立っているのです。

噂によると6メートルあるとかないとか..... 車やバスに乗っていて来んな親指があったらビックリしますよね。ヒッチハイクされてなくても思わず急停車してしまいそう？！

こんな感じで「親指」は道路状況を見守っているのです..... (笑)

もう少し行くと海の綺麗な「pointe rouge」(ポワント・ルージュ)もありますので、海岸に出かけがてら覗いてみてはいかがでしょうか？

今回は「アートな香り漂うマルセイユ」をお伝え致しました。(ちなみにフランスで「マクドナルド」は「マクド」です)



● Le Musée d'Art Contemporain

69 avenue de Haifa - 13008 Marseille

[開館時間] 10/1~5/31 10:00-17:00 6/1~9/30 11:00-18:00

[休館日] 月、祝日

[料金] 2008年4月1日現在

通常料金: 3ユーロ

割引料金: 1,50ユーロ

無料: 失業者、お年寄り、美術学生 (団体料金はお問い合わせ下さい)

[アクセス]

le rond-point du Prado(地下鉄2番線)から、23か45番のバスで「Haifa-Marie-Louise」下車(プラドの駅から10個目の停車駅)そのまま進行方向に1~2分歩くとオレンジの壁が見えてきます。

「金のおばちゃん」

「もう、金のおばちゃんは見た？」 「いや、とりあえず金のおばちゃんは明日行くよ」というような会話が私達マルセイユに住む日本人の間でよく交わされています。

金のおばちゃん.....

馴れ馴れしく呼んでいます、実はマルセイユの超シンボリック的存在の「Notre-dame de la garde (ノートルダム・ド・ラ・ギャルド) ノートルダム・ド・ラ・ギャルド・バジリカ聖堂」です。

標高約150mの丘の上にそびえ立つ教会なのですが、その頂上にイエスを抱く黄金の MARIA 像がマルセイユを見下ろしているのです。

「黄金の MARIA 像」 → 「金のマダム」 → 「金のおばちゃん」に変化し、いつの間にかマルセイユにいる日本人は誰もがそう呼ぶようになり、そして彼らを訪ねてくる旅人達もそれに習ってしまいました。

今回は少し趣向を変え「じゃんぼ〜る西」先生のマンガと共にこのノートルダム・ド・ラ・ギャルドバジリカ聖堂の事についてお話ししてみます。

ノートルダム・ド・ラ・ギャルドバジリカ聖堂は1214年に建てられました。1864年に現在のよ様な豪華な建築材とモザイクの洗練された内装が完成しました。その時代の最新技術だった電気メッキを用いて作られた MARIA 像はマルセイユ人の自慢だったそうです。

なぜ高台に建てられたかと言うと「旅の安全を上から見守る」というのが有力です。港町ならではの理由ですが、遠く、長い航海で陸地を目指す貿易商や移民達は、この丘の上にそびえ立つ「MARIA 様」が目的地の先に見えてくると「ああ、フランスだ！航海も無事に終了したぞ！」と感慨深い気持ちになったのだそうです。



私達日本人は「フランス＝エッフェル塔」なのですが、南（アフリカ大陸）から来る人々は「フランス＝ノートルダム・ド・ラ・ギャルドバジリカ聖堂」なのです。彼らが再び航海に発つ時にも必ず丘に登り、帰りの無事を祈りました。そのため、ノートルダム・ド・ラ・ギャルドバジリカ聖堂の中には浮き輪や、碇、網などの



海の装飾品が飾られています。こういう内装はどこを探してもフランス中マルセイユだけなのです。教会にはあまり見られない「キッチュさ」なのです。

それからおよそ140年の間相変わらず金のおばちゃんこと、黄金の MARIA 様はマルセイユを、温かく見守り、そして旅人達を迎え入れ、送り出しています。旅の安全だけではなく、時々「L'OM (※) の勝利」も願ったりしています。(※[オリンピックマルセイユ]地元サッカー)



ーチーム)

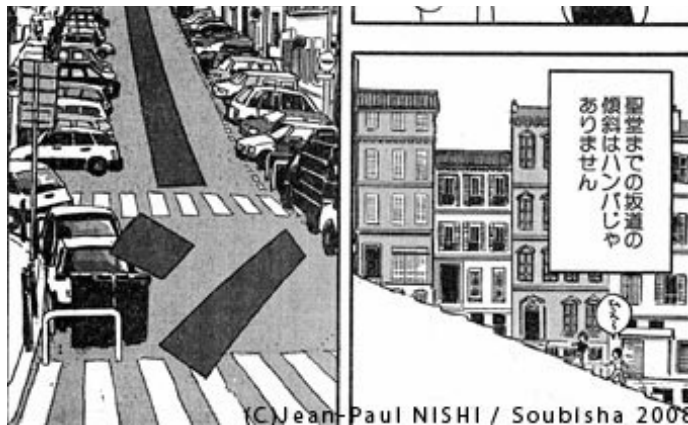
さて、普段は街から見上げては眺めている私達ですが、やはりお願いごとがある時や、マルセイユのガイドをする時はこのノートルダム・ド・ラ・ギャルド・バジリカ聖堂まで足を運びます。

行き方は3通り。

ひとつめは、60番のバスに乗る。このバス、寺院行きなので他のバスに比べるとやたらに本数が少ないです(30分に1本~)。なので、これに乗って行きたい人はきちんと時刻を確かめなければなりません。

やはり市バスで便利だし、安価で早く行く事が出来ます。

2つ目はVieux port(ビューポール)から出ている「Petit train(プチトラン)」という白い観光汽車に乗って丘の上まで上がります。途中30°の坂道を猛スピードで走るものだから、ちょっとしたジェットコースターよりスリルがあります。観光気分をハイテンションで盛り上げたい方は是非こちらをお薦めします。私も個人的に大好きな乗り物。往復5ユーロ。ちょっとお高めなのと、シーズンオフになると週末しか営業していないので、注意が必要。



(C)Jean-Paul NISHI / Soublisha 2008



(C)Jean-Paul NISHI / Soublisha 2008

では、一番早くて安価な方法は????

それは...

徒歩!!!!

作中に書いてありますが、とにかく急な坂! 途中で息が切れてしまう人もたくさんいますが、私は寺院にたどり着いた際「登った!」という達成感があるので、時間と健康に余裕のある方は是非徒歩をお薦めします。教会の中は自由に見学が出来、写真撮影もフラッシュを使わなければ基本OKです。豪華絢爛な内装なので、厳かな気持ちになって見学してみてください。

見学後は154mの高台から見渡すマルセイユをお楽しみ下さい。地中海のコバルトブルーと、南仏特有のテラコッタ色の屋根瓦のコントラストがとても綺麗ですよ。

今回は写真ではなくマンガで説明してみました。いかがだったでしょうか? マルセイユに来た際は是非「金のおばちゃん」に旅の安全をお願いしてみてくださいね。



(C)Jean-Paul NISHI / Soublisha 2008

● ノートルダム・ド・ラ・ギャルドバジリカ聖堂

寺院7:00~20:00 (夏期)、7:00~19:15 (冬期)

オフィシャルサイト: <http://www.notredamedelagarde.com>

Vieux portから60番線のバスで最終駅

時刻表で確認した方が良いでしょう。

[マルセイユ市内交通RTM http://www.rtm.fr/](http://www.rtm.fr/)

ここから左上「BUS」をクリック→「lignes 60 a 68」を選ぶ→「60 Vieux-Pprt / Notre Dame de la Garde」を選択

● Petits Trains（プチトラン）

10～12h20、13h40～18h20まで20分間隔で運行

（旧市街トランもあるので確認する事）

[オフィシャルサイト:http://www.petit-train-marseille.com](http://www.petit-train-marseille.com)

● 提供していただいたマンガ

創美社「OFFICE YOU」掲載

[オフィシャルサイト:http://officeyou.shueisha.co.jp/sobisha/](http://officeyou.shueisha.co.jp/sobisha/)

「パリの迷い方(マルセイユ篇)」 著：じゃんぼーる西

マルセイユを紹介して下さっています。いろいろなマルセイユがまた分かるかもしれませんので、是非手に取ってみて下さいね。

*連載終了しております。

単行本発売中「パリの迷い方」

[じゃんぼーる西オフィシャルブログ：http://lostinparis.jugem.jp/](http://lostinparis.jugem.jp/)

SUGOI-マルセイユ

「レイコさん、なんかすっげーマルセイユて感じの所ないっすかねえ〜？」
と旅の途中でマルセイユに寄ってくれた青年の一言で、行ってみる事にしましたStade
Vélodrome（スタッド・ヴェロドローム）。

マルセイユと言えば.....ここだよねえ、やっぱり。ここでサッカーを一度は見ないと「マルセイユ」を体験した事にはなりませんよ？

さらに今回はただの「マルセイユ」ではなく、「すっげ〜マルセイユ」ということで、より一層マルセイユとなじんで頂こうと、L'OMチームサポーター"Yankees Nord"（ヤンキースノード）のメンバーであるクリストフさんに頼んでサポーター席を取ってもらいました。

場所はなんとゴール裏すぐ。私も試合自体は何回か見に行った事があるのですが、一般席やスポンサー席だったのでこんな真後ろははじめて！ちょっとドキドキです。



←子供達もL'OMのグッズを身につけて、早く試合が始まらないかな〜と待っています。



←開始30分以上も前だというのに、既にほぼ満員状態、この日は寒かったのですが、何のその！

さあ、いよいよ選手入場！
そんなとき、突然前からかぶさるように布がやって
来ました。

「送り込め〜！」と後ろでクリストフさんが叫ぶので、何もかもが分からずに、ただただ前から来る
白い布を後ろに送り込む私達...



←なんだかテントの中に居るみたい！

後日見て見ると、相手側からはこんな風に見えていたのだとか...



←凄い！！私達はおそらく「M」の真ん中くらいかなー(笑)

ホイッスル前から盛り上がるサポーター達。ゴール裏後ろには「お立ち台」があり、そこにヤンキースノードのリーダー格の男2人がマイクを持ってカラオケ並みに応援歌を歌いまくる！（その姿は「チャゲ&飛鳥」のよう.....笑）

そのすぐ横では太鼓隊も混じって大盛り上がりを見せています。基本的に、彼らの言った事を観客がリピートしないとならないので、聞き流しでは

のサッカー観戦。

でも知っていれば楽しめる...はず。2度目のゴールは私達はすぐさま座席に座り、避難訓練のように身をかがめていたら後ろから走ってくるサポーターが私達をテトラポッドのように避けて走り去り、私達はなんとか無傷でゴールを祝うことが出来ました。

点が入って欲しいような（勝って欲しいから）、欲しくないような（後ろからの突撃の恐怖）、そんな微妙な気持ちで見ていた90分間も終え...

2-0でL'OMの勝利！

- 思わず発煙筒も上がっちゃいました！

なんだかんだ言っても、やっぱり楽しい！そしてなんだかこのスリル感がクセになってしまいそう?!最後に「これ、ニュースダイジェストと言う記事に書いてもいいですか?」と聞いてみると、Yankeesのサポーターが

「え?オレ、日本の記事載っちゃうの?じゃあいい写真撮らねえとな、アア?」

ともの凄いマルセイユ訛で喜んでおり、その場でyankeesお抱えカメラマンを電話で呼びだして来ての撮影会。

アジア人（おそらく見分けがつかないはず...）が4人もサポーター席に居たというのも珍しかったのか、地元の新聞記者も便乗して撮影。どっちが取材なのかが分からなくなっていました。



- 日本人+地元のサッカーっ子+新聞記者もう、なんでもありの1枚

試合終了後、ダラダラと駅まで向かう道のりも、勝利したと思うと嬉しくて思わずスキップしてしまいそう。「面白かったろ?アア?」とやはり、嬉しさあまりに顔が終始ニコニコ顔のクリストフさん。来週は娘と一緒に「NEMO」（注：ディズニーの熱帯魚）の子供劇を見に行くそうです。「行きたくなえなあ〜でも、娘が行きたいって言うてるから仕方ねえよなあ〜アア?」まあ、ディズニーの劇

はL'OMのマッチよりも興奮度が少ないですからね（笑）

ということで、今回は「すっげ〜マルセイユ」ってどんなの?という事で身体を張った取材でした。

「実は私、反射神経がいいのよねえ〜」なんて思っていて、普段あまり体験出来ない「興奮」をお望みの方は是非ゴール裏で「すっげ〜マルセイユ」を体験してみてください。その他の方は「一般席」でも十分に楽しめますよ。

ちなみにマルセイユは「マッチを家族で楽しむ」感じがあるので、勝っても負けても暴動等はまず起きず、普通に女の子1人でも行けるような雰囲気ですので、怖がらず、是非一度は足を運んでみてください!

● Stade Vélodrome

3, Boulevard Michelet 13008 Marseille

メトロ2番線でRond point du Prado下車すぐ

- L'OM公式サイト

<http://www.om.net/>

- Yankee nord公式サイト

<http://www.yankee-nord.com/>

黄金の液体を...

「今日は良い！○○○○日和だからいらっしやい！あー、上は長袖、下は靴下はいてえ〜厚いズボン
はいてえ〜、スニーカーでいらっしやいよお、アア？」と、かなりマルセイユ訛で電話がかかって
来た。

この夏気候でなんだってこんな格好をしなければならないのか？

すっかり冬に舞い戻った格好で待ち合わせ場所に向かう私。

その電話の主はジェラルールは既に待っており、到着するや否や彼の車に乗って本日のメイン場所
に向かった。

「○○○○日和？」（答えは下）

車で30分弱、車の音はおろか、人の声すらない山奥に入ってきました。



←「ATTENTION AUX ABEILLE」 (ハチに注意) なんだこりゃ？



「じゃあ、これ着てな」

.....？

渡されるがままに着てみた（笑）

何をするか分かります？

難しい...ですかね？もう少し進んでみま
しょう。



おじちゃん古めかしい器具に、紙やら木
の葉やらを入れて火を付け、空気を入れな
がら煙を噴かす。

そして煙を回りにまき散らしながら森の奥
深くへと入って行く。

「おーい、やって来たぞ
ー（モクモク...）」
この引き出しのようなも
のに煙を目一杯振りか
ける。



そしてそっと引き出しを取り出して見ると...

チャーン！ 働き盛りのミツバチたちです！！！！

もうお分かりでしょう！

今回はフランスで一番おいしい蜂蜜が採れると言われて
いるプロバンス（マルセイユはプロバンス地方です）で
、ミツバチを操っているジェラルールの所に来ています。
そもそも「ちょっと面白い人がいるんだけど」と紹介さ
れたのがジェラルール。普段は教習所のバイクの先生、シ

ーズン中はハチミツ職人という彼は、ミツバチを育てる所から、ミツ採取、パッケージング、販売までを全てひとりでこなすのです。

元々、彼の伯父さんが養蜂家だったのをきっかけに10年前からテクニックを学び、今に至るそうです。彼のスタンドはとても小さくて、ハチミツもすぐになくなってしまっただけで、いつ行っても同じものがない位いろいろな種類のハチミツを扱っています。正にその時に会ったハチミツが「食べ時・旬」のハチミツなのです。

「ミツバチもさあ、同じ物を食べてるよりもたまには違うものを食べた方がいいだろう？オレもいろいろなミツ食べてみたいしさあ～アア？」と語るジェラルル。



↑こんな感じでミツバチをトラックに乗せます。

今まで「ミツの種類だけミツバチの数がある」と思っていたのですが、実はジェラルルが育てているミツバチの場合は、その場所へ連れて行き、1カ月くらい置いておくのだそうです。ミツバチの卵をかえして、育て、自分の欲しいミツの所へ彼らを連れて行く。そうして彼らが採ったミツをジェラルルはもらい、市場へ並べる。うーん、1人でやっているけど「共同作業！」ちょうどこの日はシャタニエ（栗の木）の近くに置いたミツバチたちを見に行く日。



この大きな栗の木！

耳を澄ますと「ウィ~~~~~」とミツバチたちの羽音が聞こえます。一体ここにはどれだけのミツバチがいるのでしょうか？ジェラルルのミツバチだけじゃないはず...

彼らの仕事場。もちろんこの箱もジェラルルの手作り..... 後1カ月位するとオイシイおいしい、ミツが採れるのだとか。

因みに周りの様子。本当にだーーーーれもいません。管理されている自然公園なだけに、許可がないと入れないのです。



ミツバチの働きぶりを観察した後は、ミツの採り方を教えていただきました。

まず、こういう「蜂の巣疑似網」を板に貼って平らな巣を作ってもらおうよう促します。（でないといわゆる「蜂の巣」のような立体的なものを作ってしまうから）1カ月くらいすると真ん中のような感じになります。これを円心機にかけ、ミツとカスを振り分けます。それが右の写真です。



これがミツを採った後のカス。

蜜蝋（ビーワックス）として、家具のワックスに使ったり、ろうそくにしたりして、活用します。



因みに、箱のなかった大昔は、こんなパニエに入れて栽培していたのだとか...（パニエの部分が蜂の巣、下にミツが流れるようにしてある）

こんな風にハチミツの採り方を目の当たりにした私。

全てが自然の方法、まさにビオ中のビオ。化学添加物なしのハチミツは口の中に含むと、トロリととろけて、喉を通過して全体に広がり、浸透して身体が黄金色に変わってしまうのではないか、という気持ちになります。

ジェラルールは「ハチミツをいろいろな風にして食べてみたい！」とアイデア満載の人。ハチミツの種類もさることながら、ハチミツの酢（絶品！）、ハチミツのキャンディーなど全てジェラルールひとりで試行錯誤しながら作り出されています。

今回はジェラルールの所の養蜂所見学をしてみました。マルセイユ、及びプロバンスにはたくさんのおいしいハチミツが売られています。日本ではあまり手に入らないフランスのハチミツ。マルセイユ（プロバンス）に来たら是非ハチミツ試してみてくださいね。

豆知識

正解：○○○○日和「ハチミツ日和」とは？ ・風がない日（風が吹くとミツバチも飛んで、刺されやすくなる） ・暑い日 ・雲があってもなくても構わない

こんな日はよくハチミツが採れるので、日曜日でも働いてしまうそうです。

そんな3つの条件が揃ったら「うむ、今日はハチミツ日和だな」と言うのがプロバンス風（笑）

●ジェラルールのハチミツが買える市場（マルセイユ）

火曜日：地下鉄1番線「Reforme cannebiere（レフォルメ・カヌビエール）」駅降りてすぐの広場

木曜日：地下鉄1番線「Charteroux（シャルトルー）」駅降りてすぐの広場

土曜日：地下鉄1番線「CINQ AVENUE LONGCHAMP（サンクアヴェニューロンション）」駅降りてAv.du Mal fochを通り、次の道Rue G.Clemenceauを通ると見えるSebastopol広場

今年もやってきました「ハチミツ日和」

[前回ハチミツ狩りに行ったコラム](#)は皆様覚えていらっしゃいますでしょうか？

前回はハチミツを「狩る」(正確には「採る」ですね) 所をお伝えしましたが、今回はハチミツの出来るまでをレポートしてみたいと思います。

またお邪魔したところは「ジェラルルの養蜂所」 バイクの教習中に「あ、そう言えば、明日ハチを瓶詰めするけど見に来る？」とジェラルル。ジェラルルはバイクの教習所教官兼ハチミツ職人なのです。「あ、行きたい、行かせていただきます」と言う事で急遽向かう事に。

今回は森には行かず、直接工場へ.....と言ってもジェラルルと、奥さん、そして中学生の息子が営んでる「家庭工場」です。

まず、ミツバチたちが仕事をした後のプレートを箱から取り出します。ミツバチが仕事をした後はこんな状態になります。



左が新しいプレートで、右がジェラルルの同僚（ミツバチ）が仕事をした後のプレート、圧巻ですね。



そして、詰まってしまった（糖化してしまった部分）を くしのようなものや、大きなナイフでそっとそぎ落とすと.....



でろ～んと出て来た黄金のハチミツ！ もう見ただけで口の中に甘さが広がるようです。
ちなみにこれが蜜と蜜蝋が一緒になったもの。 チューイングガムのように食べて、 ある程度甘さ
なくなったら蝋のみを捨てます。



そしてさらにガリガリやってみると...
「救出！！！！」 ジェラルールの同僚(?)であるミツバチ君が1匹 埋もれたハチミツの中から出
ました。
ああ、苦しかった！九死に一生！！



このように削ぎ落とした後のプレートを入れて まわす事30分～1時間で、蜜が樽の中に分離され
て溜まります。えーと...ぐるぐると...早すぎて見えない！！



それを水道のようにトロリと出して.....。

ほら！

そして何度か濾して最終的に瓶詰めされて行くのです。

今回のハチミツは「toutes fleurs（全てのお花）」という名前のハチミツです。これも置いた箱の場所によって色が若干異なるのだとか。というのも、そこそこで、咲いている花が違うので、当然密の色も変わって来るといいます。凄い！



ハチミツ色、と言うと思えば一色なのに、ハチミツを並べて見ると色々なハチミツの色があって驚いてしまいます。

こうして今年のハチミツ狩りも盛んになって来た、ここ最近のマルセイユです。来月末にはラベンダーのハチミツ狩りがあるとの事。当分甘い汁からは逃れられそうにありません。

ちなみに私が使っているハチミツのレシピをご紹介します。

日本でもフランスでも簡単にできて、身体に優しい

ので試してみてください。

リラックスドリンク（マグカップ2杯分）

水

400g

ショウガ

親指くらいの大きさ

レモン

半分

ミント

一枝

ハチミツ

ティースプーン2杯

1. ショウガを皮ごとすりおろします
2. レモンをしぼって、皮も少しすって入れます
3. これらを鍋に水とともにに入れて、煮ます
4. 沸騰して来たら良く洗ったミントを、一回「パン！」と手のひらで叩いてから入れます（こうすると香りが強くなります）
5. 濾してマグカップに入れ、ハチミツをティースプーン1杯入れて混ぜて出来上がり

夜寝る前に飲むとからだがかぼかしてよいですよ。風邪をひいた時にも効果ありです。ちなみにミントは消化に良いので夕食の重たくなった胃にも良く効きますよ。

● ジェラルールのハチミツが買える市場（マルセイユ）

火曜日：地下鉄1番線「Reforme cannebiere（レフォルメ・カヌビエール）」駅降りてすぐの広場

木曜日：地下鉄1番線「Chartereux（シャルトルー）」駅降りてすぐの広場

土曜日：地下鉄1番線「Cinq avenue Longchamp（サンクアヴェニューロンション）」駅降りてAv du Malfochを通り、次の道 Rue G.Clemenceauを通ると見えるSebastopol広場

マルセイユで一番おいしいココアを求めたら.....?!

「マルセイユで一番おいしいココアがあるんだけど、飲みに行かない？」と誘ってくれたアキコちゃん。「なに？マルセイユですと？」



早速向かったその先は...

←赤い椅子とファサードが目印

「あ！Cafés Deboutだ！」このカフェは1932年に創業したマルセイユの老舗コーヒー屋さん。私はこのコーヒーがマルセイユで一番おいしいと太鼓判を押している。コーヒーしか飲んだことなかったけど、ココアもおいしいのかあ.....。

中に入ってココアを頼みながらも、中から漂うコーヒーの香りはやっぱり魅力的！たまたま閉店間際とあって、他にお客さんがいなかったことから、お姉さんと世間話。このコーヒー凄くおいしくて.....」（と、ココアを飲みながら話している 笑）「うちのコーヒー自家焙煎なのよ」やっぱり！



笑顔のお姉さんが作るココアはとてもおいしかった！次からコーヒーとココアと迷い

そう.....。↑

「もうマルセイユには3軒しか自家焙煎しているお店はないの。ほとんど工業製品になっちゃっているから.....。焙煎所、見に来る？」「見学しても大丈夫なんですか？」「もちろん！場所はちと離れているけど」早速焙煎工場へ行ってみることに。



↑中では朝仕事前に立ち寄るマルセイユエたちが、手短かにコーヒーを一杯

「焙煎見学の子だね。よっしゃ、来なさい、アア！」とマルセイユなまりの聲がして、奥から藤を見せたのはもう誰もが見間違ふことのない「ザ・マルセイユ」のフレッド。コーヒーよりもパス飲んでそうなイメージが拭いきれません。



中をのぞくとなんだかとてつもない大きな機械がどっしりと構えています。「今、この機械を温めるから、ちょっと待っててなア！」



フレッドも大きな人なのですが、この機械と比べると凄く小さく見えますね。



「ほら、この豆だよ」と見せてくれたのはコスタリカのコーヒー豆。「アフリカの豆と南米の豆を混ぜて焙煎するとウチのオリジナルになる。分量？そりゃ秘密だよ！」「こういう生の豆がアフリカや南米から送られてきて、それを焙煎するんだよ。すぐに飲めるコーヒーが送られてくるわけじゃないんだ。ブレンドしながら焙煎するから、焙煎所によって味が違うんだよ」
なあるほど！



→ そうですね、焙煎前のコーヒー豆って見たことありませんでした。緑なんですね



← 計ったコーヒー豆を上からダイナミックに入れるフレッドさん。

1回で焙煎できる量は40kg、きちんと計らないと同じブレンドにはなりません。

「色が変わってくるから、そうしたら取り出すんだ」「どうしたら分かるんですか？」「20分くらいだけど、目と鼻と耳かな。感覚でだいたい分かる。だんだん店内が香ってくる頃、煎（い）っている時の音が変わってくるのだそうです。さすがこの道20年のフレッドです。

「ほら」と見せてくれた色の違い、ホントだ！だんだんと茶色になっています！



「こんなもんかな……」と、取り出した豆をまじめに見つめるフレッド。この瞬間がこの1週間の豆の運命を決めるのです。今まで冗談を言っていたフレッドもこの時ばかりは真剣そのもの。



次の瞬間、ざざー————と出てきたコーヒー豆。その香ばしさったら！コーヒーの香りはどんなに嗅いでいても、飽きることがありません。

冷ましながら5～10分程回します。

落ち着いたコーヒーの出来上がり。





ああ、出来上がりのコーヒー、今すぐにでも飲みたい……。

でも、冷めた翌日以降の方がおいしいのだそう。

この豆を麻袋に入れて一日寝かせるそうです。

1時間半弱のコーヒー焙煎、ひとつひとつきちんと丁寧に教えてもらい、大満足。「マルセイユのコーヒーはうまいよ！パステイスもいいけど、コーヒーも飲んでくれよなァ！」とマルセイユなまりたっぷりに、豪快に笑うフレッド。



←店員さんと一緒に。ちょっと恥ずかしそうだったのが印象的。

みなさまも、マルセイユにいらした際は、是非Cafés Deboutのコーヒー試してみてくださいね。

「ココアもコーヒーも両方飲みたいんだ！」という方にお勧めは…… vieux portのカフェに行ったら、コーヒー豆を買って、お店でココアを飲んでみることです。



- Cafés Debout

vieux portのお店

46, rue Francis Davso 13001 Marseille

www.cafesdebout.com

- 焙煎所

244, bd National 13003 Marseille

基本的に焙煎所の見学は受け付けはしていませんが、ちらりと機械などを見ることは出来ると思います。

最後の楽園？フリウル島



観光客に混じって買い物袋を下げたおばちゃんも乗り込んだりしている、Vieux port駅発のこの船……。一体どこに行くのでしょうか？

実はマルセイユ「最後の楽園」と呼ばれている地区があるのです。人口がたった600人しか住んでいない自然の色濃く残る「フリウル島」。

小さな消防署とレストランがあるだけのこの島は、病院も学校もお店も娯楽もない。マルセイユへ行く船の最終便は19時なので、マルセイユのレストラン

に行ったらもう帰って来れない！

本当になんの娯楽もない島なのですが、一度ここに住んでしまったが最後、家族代々住んでいるという人が少なくありません。またマルセイユ陸地に住んでいる人で、特にエコロジストたちは「船を買って、フリウル島に住むのが夢」と目を輝かせています。



確かに、たくさんの船が停まっています。「実はこの船が家」とい人もいるのだとか...

むむむ……。この決して便利とは言えないこのフリウル島のどこに取り憑かれてしまうのか……。少し探ってみることにしましょう。

本当に何も無い.....

マルセイユからの船が着く港の回りには、ご

くわずかのバーとレストランが並んで建っています



←港に着いた所。本当に港の前にしかこれほど建物は隣接していません。



その後ろには唯一ある公的機関「消防署」。ここから先はどこにいても民家しかありません。観光スポットといえば、高台に上って見渡す景色か、カラंक(岩場)を伝ってコートブルーと呼ばれる地中海にたどり着くかのどちらかです。



歩いているとぽつーん、ぽつーんと、建物があって、ようやくたどり着くと.....。



前述の通りの絶景！



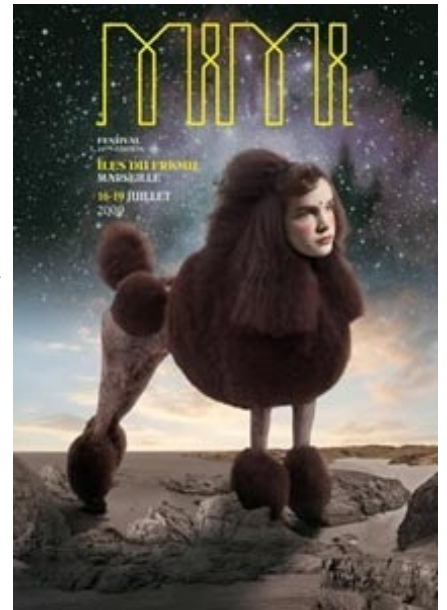
人工的な通り道もほとんど出来ていません。



夏はここぞとばかりに泳ぎに来ている人でいっぱいになります。

↓これが開催された今年のポスター

このフリウル島は「出来るだけ自然の状態を残そう」とアソシエーションの人が一生懸命島をきれいにするよう呼び掛けてます。その甲斐あってか、この島周辺で行うダイビングは格別だとのこと。近場の浅瀬に少し潜っただけで魚がまわりに寄って来るので、「遠くまで行かなくてもここで十分だ」とマルセイエたちは口を揃えて言います。また、夏はフリウル島を活気ある島にしようとさまざまな催しが行われ、今年はアートフェスティバルも開かれました。



おそらくこの地区に今後も娯楽施設が建ち並ぶ事はないでしょう。どこの街にも見かけることのできない「手つかずの自然」がこの大都市に残っているというのはとても珍しいのではないのでしょうか。

ただ、住民のためにも病院と学校は建てなければならない、と現在マルセイユ市は総力を挙げてフリウル島の開発に取り組んでいる.....という話ですが、これもとても前に聞いた話...「安心して住む事の出来る自然の色濃く残る島」にはいつなることやら.....



実は人口よりもカモメの方が多かったです.....

マルセイユに2日以上滞在するのであれば、一度足を伸ばしてみるのをお勧めですよ。

- フリウル島に関するリンク

<http://www.le-frioul.com/>

<http://www.ilesdemarseille.fr/index.html>

- フリウル島への行き方

Métoro 1 番線Vieux port駅を下りると目の前の船乗り場（フリウルエクスプレス）なので、そこから乗る。

料金：往復10ユーロ フリウル島行き

フリウルエクスプレス: <http://frioul.cityway.fr/>

甘く色とりどりの人生はマルセイユから？！

フランスを旅して歩いている青年がマルセイユへやって来て、Vieux Portの屋台で「HARIBO（ハリボ）」を買って食べた。

そして.....こう言ったとき。

「マルセイユのHARIBOはなんて柔らかくてフレッシュなんだ！フランス中で一番おいしい！」
するとマルセイユおじちゃん。

「兄ちゃんその通り！HARIBOはマルセイユで作ってんのさ、オレは工場直買いなの。だからおいしいの、出来たてホヤホヤなのさ〜♪アア？」と言って得意げに笑った。

「ええ〜本当？HARIBOってドイツのお菓子でしょー？輸入じゃないのお？」
どうも腑に落ちない私はまず、スーパーに行ってHARIBOの袋の裏をしてみる。

「MARSEILLE」って書いてある。

「え！本当なの?!」

それでも信じられない私は（笑）ネットで調べてみることに。【HARIBOは1920年にドイツで生
ツ国内に5、欧州に13の工場があり、営業所は欧州とアメリカにある（wikipediaより）】

そうか、この欧州13のうちのフランス工場はマルセイユにあるのね（フランスには3あり、他
はUzes（ユゼス）とWattrelos（ワトルロ）。なんでもマルセイユの工場は、フランスではじめて
のキャンディー工場として1967年に設立されたらしい。

そんな素敵な話、はじめて聞いた！これはニュースダイジェストをお読みの皆様にもお伝えす
べく、行ってみようではありませんか！

ということで、早速私は工場の位置を確認し、出発。メトロと
バスを乗り継ぎますが、わりと分かりやすい場所。そもそも、
降りるとすぐさま甘い香りがするので、分かっちゃいます♪

→この銀色のチューブが工場です。ホンワリと甘い香りが漂います

まずは一般の人が入れるとい
う「HARIBO ブティック」へ
向かう。外観から見間違ふこ
となく「HARIBO ブティ
ック！」

中に入るとそこはまる
で「HARIBOのデパ
ート」!!!



色とりどりのグミキャンディーは業務用のように大きな袋に入れられ、どっさりと積み重ねられ
ていたり、ファミリーサイズの箱に入れられていたり、ピクニック用に小分けの袋に入ってい
たり...なんだかどこから見ていいのか分からなくなってしまいます。



Tシャツやマグ、バッグなど他では買えないオリジナルグッズも充実。

ある程度目星を付け（買うつもりはなかったのに！）いざ、工場見学が出来るかどうか店員さんに聞いてみたところ、「工場にはもう入れないの、20年位前に衛生上禁止になったから。」「え（聞き）「あ、でもUzesにミュージアムがあるから行ってみたら？そこで工場が再現されてるわ。」



.....と、言う事で、来てみました「HARIBOミュージアム」大きなHARIBO君に迎えられ、庭を進んで建物の中へ入る。

これはもはや子供向けのミュージアムではありません。

3階建てになっている建物は、HARIBOの歴史、広告物、工場内の再現、作り方など、様々なものが展示されていて、1階を見るだけでも1時間以上かかってしまうほど。

元々グミキャンディーってどうやって、あるいは何から作られているのか、疑問に思ったことがなかったが故、一からの製造過程が細かに再現されているコーナーは本当に興味津々で見させていただきました。フランス語がわからなくても大丈夫。

では、写真を見ながら説明してみましよう。



こちらはマルセイユ工場を再現した内部です。なんだかチャーリーとチョコレート工場みたいでしょ？



こちらは丸い赤いグミの作り方とフランスでも大人気スマーフグミの作り方です。

ボタンを押して香りを楽しむゲームや、できたてのグミをその場でパックしてもらえるとというマシンがあったり、「Ricqlès (リクレス)」というミント



のキャンディーを実際に作っている工場も見学出来て、なんだか本当に盛りだくさんのミュージアム。最後に庭にある自分たちよりも大きいHARIBO君やゴールドベア君たちと記念撮影。

HARIBO好きな人はもちろん、広告好きの方、工場好きの方、アミューズメントパーク好きの方、全ての方に声を大にしてお勧めしたい場所ですよ。

実際、私が一緒になった家族連れは、子供よりも親の方がハマってしまったようで、夫婦で「香り当てごっこ」を真剣にプレイしていました。子供はその親をグミを食べながら待っている……（フランスではありがちなパターン）



←こちらはユゼス、ニームのシンボル、ワニの形をしたグミ。フランスで一番売れているらしいです♪

帰りはやはりマルセイユと同じようなミュージアムショップでオリジナルグッズやグミを購入することができます。

家族連れだけではなく、私達大人でもすっかり楽しめてしまうHARIBOツアー。

これから始まるバカンスに、少し足を伸ばしてマルセイユまでHARIBOを食べに来てみてはいかがでしょうか～？

個人的にはまずHARIBOの工場直営店でHARIBOを購入し、外観を眺めた後、ミュージアムに行くとリアルなHARIBO体験が出来てオススメです。

余談ですが…

マルセイユの人にお土産を頼む時は石鹸もいいですが「HARIBO買って来て～」と頼むと密かに「マルセイユ通」ですよ（笑）



今回はフランス人も知らなかった？みんな大好きHARIBOはMADE IN FRANCEをお伝え致しました！

● HARIBOホームページ

www.haribo.com

世界各国の言葉で用意されてますが、残念ながら日本語はないようです。

● HARIBO工場・ブティック

9 Gay Lussac 13014 Marseille

月曜日～金曜日 10:00～17:00（工場の開いている日のみ営業）

詳しくはお問い合わせを！

TEL：04 91 37 55 03

地下鉄：Bougainville駅（2番線）からバス（38番）で9個目の停留所

※この地帯はあまり治安のいい場所ではありません。行かれる際は十分な注意をし、暗くなってから（特に冬）行かないようにして下さい。

● Musée du Bonbon（HARIBOミュージアム）

Pont des Charrettes 30700 Uzès

7/1～8/31 : 10:00～19:00 (最終入場18:30)

9/1～6/30 : 10:00～13:00、14:00～18:00

定休 : 月曜日、1月の最初の3週間

入場料 : 大人6ユーロ、子供3ユーロ

TEL : 04 66 22 74 39

【アクセス】

車でのアクセスが一番理想です (ウェブサイト参照) バスの場合、アルルあるいはユゼスからのバスがありますが、アヴィニヨンから出発しているのが目の前で停まるバスのようです。詳しくは、アヴィニヨンのツーリストインフォメーションにお尋ね下さい。(ウェブサイトの地図を持って行くといいです) マルセイユから少し離れますが、日帰りも十分出来る距離です。

飲み歩き@マルセイユ

「soirée (ソワレ) に誘われたんだよね、明日」とか、「今夜 fête (フェット) があるけど、一緒にどう?」とか、「Barにでも飲みに行こうか」なんて声がかかることがよくある。

私個人的な定義ではありますが

ソワレ：最大10人くらいの夕食をメインにしたホームパーティ フェット：誰か知らない人（……っても、友達の友達などつながりはもちろんありますが）も来て大勢でワイワイ楽しむパーティ、
：というのは一杯グラスを片手にその辺の人とたあいもない話をする
というものです。

ソワレは気心の知れた人達が集まるパーティなので、主におしゃべりとお食事に花が咲きます。自分の家族の話、最近見た映画の話、友達の結婚式の話……などなど、プライベートな内容も盛りだくさん。



この日は「海産物ソワレ」と題して、参加者それぞれが海産物を持ち寄り白ワインで食するという、海の幸がおいしいマルセイユならではの催しでした。

フェットは人数制限がほとんどないようなもので、連れて行かれるのはいいが、誰の家なのか、誰の友達なのか、そもそもその家がマルセイユのどの辺にあるのかすら分からないような事も多く、どちらかと言うと毎回「連れて行かれる」感を強く感じます。

でも、こう言う時に「恋の花」が咲く事が多いのだとか。フランス人のカップルに聞くと大体出会いは「えーっと、友達のフェットで会ったんだけどね」なんて答えが返ってきます。

DJが来る事も多く、家の中が突如クラブ化する事も多々あります。いつもこの状況を見つつ「日本にはない文化よね」なんて感心してしまいます。

こちらは工場を改造して造った場所で行われたフェット。日本のクラブともちょっと違う感じで、なかなかおもしろいですよ。

この日は我が家でのフェット。予定では60人くらいだったのに、最終的には全部で150人以上参加していたのだとか…私もほとんど知らない人ばかりでした。



バーに飲みに行く、というのはおおよそ友達から「XXで飲んでるからおいだよ」というお誘いを受け、そのバーに行って何となく飲むというパターン。2008年に「室内禁煙」という法律が出



来てから、どんなに寒くてもバーの外で煙草を吸いながら飲んでる人がたくさんいます。

「寒いよね」なんて言いながら、偶然隣にいた人と話し始めたら、実はその相手の家が自分の家の近所だった…… こんな事も実はマルセイユでは珍しくないのです。

と言うのも、たいていのマルセイユ人は自分の家から歩いて行けるバーに足を運ぶ事が多いのです。なので当然そこで出会う人たちはご近所さんである確率が高いので、「じゃあ、また今度このバーで会ったら一緒に飲もう！」なんて話になり、次に会った時にはその人のうちで開かれるフェットに誘われるというパターンに発展することも多いようです。そして、その最終形が先ほど書いた「ソワレ」です。

マルセイユではそんな風に知り合いや友達の輪が広がって、だんだんと「マルセイユ」社会に入っていく事になるようです。

皆さんの街ではどのようにソワレやフェットに行かれるのでしょうか？



HERBORISTERIEってなに？

前回「[Le goût des marseillais](#)」のイベントに参加した際に、本の中にも出て来たのですが「HERBORISTERIE」という言葉。



「HERBORISTERIEって何？」 「なに?! HERBORISTERIEを知らないのか今この足で行ってこい！」 と言われ、カメラ片手に渡された住所に向かいました。

中心街にあるとは思えないほど小さくて細い道... その右手に何やら木造の大きな建物が見えます。 その名も「PÈRE BLAIZE」

重い扉を押して見るとすごいっ！ 手描きで記された小瓶や缶に入ったスパイス、引き出しに直接入れられている

ハーブが壁一面を飾っています。

→真ん中のポスターもこの店オリジナルです



「あれはなに？」 「これは何のため？」 思わず心の中で大はしゃぎ。

引き出しに入ったハーブ達、こちらは手描きで書かれたスパイス。よく見ると台所でお目にかかるものもたくさん！



もうお分かりだとは思いますが、「HERBORISTERIE」は日本で言う「漢方薬局」フランス辞書によると「薬草販売店」なんです。1815年から同じ場所に店を構え、以来マルセイユ人の健康をサポートして来たこのお店は、現在6代目店主により切り盛りされています。

最近では病気になればすぐに医者に行き、薬をもらって、はい終わり！という人が増えて来ているため、全国でだんだんと姿を消しつつあるこの「HERBORISTERIE」。ここは南仏はもちろんフランスの中で最も大きな「HERBORISTERIE」のひとつです。

店主のマルティヌさんは「日本の健康の考え方と一緒に、病気にならないように日頃から身体を労る事、それを助けるのはやはり薬ではなく、自然療法であるべき」と力説しています。「BIOの食べ物を食べるのもいいと思う、けれどバランスの取れた食事、そして身体の毒素を取り除く自然療法があってこそ健康ね」。うーん、納得！

！お客さんは一人ひとり薬剤師さんとお話をしながら その時に一番いいものをご購入して帰る。



話を聞いている間にも途切れる事無くお客さんが入り続けている。「ちなみにどんなお客さんが多いのでしょうか？」 「8割型女性ね。自分だけでなく家族のものを



いに来る人もいるわね」

マルティーンさんは、こう続ける。「昔は大家族が多かったのね。だから家族全ての健康状況は一家の女が把握していたのよ。旦那さんや子供たち、嫁、孫、全てね。でも核家族が増えて、日頃の生活状況もよく見えない今ではどうしたらいいのかわからない人達が増えて

来ているの。だからこそ、私をはじめ、ここに居るみんながいろいろとアドバイスをしてあげられたらいいなと思ってるのよ」。

その時に一番いいものを購入して帰る。

「まるでマルセイユのお母さんみたいですね！」と言うと「それじゃあ、私にはどのくらいの子供が居るのかわからないわねー」と笑っていました。

「では、どのような症状を訴える人が多いのでしょうか？」「美容・ダイエットね、やっぱり。不眠やストレス、今この季節だと『肝臓に効くものはないか？』って聞いて来る人も居るわ」「あはは、クリスマスの後だからですね」「その通り！」

→ダイエットや美容は飲むだけではなくアロマセラピーや、オイルマッサージもお勧めしているようで、オリジナルのアロマオイルなども売られている。



←それでもやはり「信じるものは救われる、継続は力なり？」で 続けてみるのが一番！

「処方箋がなくても買えるのですか？」「もちろん！ドクターからの指示で買いに来る人も居るけど、医療保険の対象外ですし『絶対すぐに治る！』という保障もないからアドバイスを受けても買いに来ない人も残念ながらいるのよね」

最後に... 「個人的な事なんですけど.....私もちっとクリスマスに食べ過ぎちゃって（笑）何かいいお茶があったら欲しいんですけど〜」と頼んでみると、ささっとマルティーンさんが裏に行き、袋一杯のお茶を持って来てくれた。「飲んでみて！」

→私のためにいろいろと処方しながら 作ってくれているマルティーンさん。どんなのだろう？



大きなお茶の袋を手にしさんとお別れをして店を後にしました。マルセイユは昔から「パステイス（アニス）」や「プロバンサルハーブ」にも見られるようにハーブがとても日常に浸透している街。マルセイユに来る機会があったら、是非立ち寄って自分により自然療法のアドバイスを受けてみたらいかがでしょうか？

「やっぱり日本の健康ブームは世界一！」と思っていた私ですが、こんな身近に素敵な健康療法があったなんて嬉しい発見です。とりあえず、頂いたお茶を飲みつつ健康について考えてみることにします。

その前に...

「パステイス一杯下さーい！！」

- PÈRE BLAIZE

4 et 6 rue Meolan 13001 Marseille

メトロ1番線vieux port駅から徒歩5分

火曜日～土曜日 9h30～12h30 14h30～18h30

Tel : 04 91 54 04 01

Fax : 04 91 33 41 31

<http://www.pereblaize.fr>

朝からスイ〜っと

毎日暑い日が続きますね。アイスクャンディー片手に地中海を窓から見下ろしながら書いております。……と、いかにも涼しそうなシチュエーションですが、そんなことはありません、猛暑なマルセイユです。

さて[先月のコラム](#)、ご覧頂けましたでしょうか？ここでも少し触れましたが、なんとマルセイユにスケートボードの学校がある！ということで、取材に行って参りました。

今は夏休みなので通常の教室はお休み。この日は「サマースクール」と題して、朝9時から12時までフリースタイルで練習場を使い、自分の苦手な部分を克服するというプログラムでした。



今回お話を聞いたのはトマ。前回書いたFreestyle cupの主催者の1人でもあり、2年前からこのアソシエーションでスケボーを教えている先生でもあります。

このアソシエーションはマルセイユのスケーターたちが9年前に起ち上げたそう。少なかったメンバーも今では生徒を200人も抱えるほどに。スクールもマルセイユ内に2つ抱える大きなアソシエーションに発展しました。

「みんなの目標は年に数回ある大会に出場することかな」「何回くらいあるんですか？」「この地域(PACA)だけでも10弱かな。この前来てくれた一番大きい大会だよ」「みんなそれを目指してがんばっているのですね」「マイナー部門でがんばってトップ3に入ると、最終日にセミプロの人たちに交じってプレイできるんだ。みんなそれを狙ってるんだよ」「年齢は関係ないですか？」「関係ないね。年齢や体の大きさ、足の長さ、それに神経なんか全く関係ない。ただ、怖がってあきらめちゃうか、練習して克服するか、それだけのこと。そこがスケボーの面白さだよ。スケボーはみんな平等だからね」

うーん、なんかスケボー哲学アツいです！！（感涙）

まずは先生がお手本を見せます。



実際に上ってみて高さなどを先生と確認。「ど？できそう？」「う〜ノよりも高いなあ……苦笑」

始める前にイメージトレーニングも欠かさずに！

彼は初めての挑戦、先生が手を貸してくれています。

わ！失敗！ハラハラしながらも

幼少の頃の逆上がりと

を思い出したのは私だけでしょう

うか？





ーお兄ちゃんに続いてちびっ子も挑戦。

「こういうことをしているのってマルセイユだけなんですか？」 「いや、他にもあるよ。”スケボーキャンプ”とい、毎年何人かを集めて、この地域をバスで移動しながらいろいろなスケートパークにすべりにいくの」 「なんか、楽しそう」 「でしょ？ そこにいる子たちと一緒にプレイしたりか情報を教え合ったりして友好を結ぶってわけさ」 「なんかとても素敵なスポーツに思えてきました！」 「笑」

「ところで、どの位の年齢から始めるんですか？」 「あの子見える？ 白いTシャツを着てる子。5歳だよ。始めて半年位かな？ 向こう見ずだから、見ているこっちが怖いんだけど、恐れなくてことがスケボーでは大事だから、あの子はきっとすごく上達すると思う」 ジュール君のおばあちゃんが見学に来ていたので、聞いてみました。 「お孫さん、結構はっちゃけていますけど、怖くないですか？」 「アタシはおばあちゃんだからね、心配するのはあの子のママよねえ〜。アタシは知らないわ〜アハハハ！！！！」



.....。 さすがマルセイユマダム、肝が据わっています。

↑すい〜〜〜っつ。 将来性ばっちりなジュール君(5歳)

そうそう、スケボー少年たちには、スケボーだけでなくそれに付随するファッションにもきちんとこだわりがあるんです。



前日誕生日だったこの子。 スケボーとヘルメット、シューズを買ってもらったそう。 よほどうれしかったのか、何度も見せに来ていました。



彼は、数あるTシャツの中でもこの白いシャツが一番のお気に入りなのだそう。 5歳なのに“シンプルイズベスト”を分かっている?!

それにしてもトマ先生、かなりなつかれています。 私がこうしてインタビューをしている間も 「ここはどやるの？」 「ちょっと聞いてよ！」 うテクニックは、トマは何歳の時に

できたの？」 なんて、質問に来る生徒でいっぱい！ それにきちんと対応しているトマは、なんとか寺小屋の先生のようにほほ笑ましかったのです。

ー「トマ、昨日僕誕生日だったの！ でね」 永遠に話が止まらない彼。

甘えっ子だなー。





そんなマルセイユのスケボー・スクールに、
らいました。



← うまくできると楽しいよね！

「これから何するの？」

「午後からは海で泳ぐ~~~~~。アチイよお~~~~！！！」

午前はスケボー、午後は海水浴。 マルセイユっ子の夏休みは始まったばかりです ^^

- L'association BSM (Board Spirit Marseille)

40, rue de l'alliance 13015 Marseille

TEL : 04 95 04 95 29

bsm.asso.online.fr

- 今回訪問した場所

Skate Park la friche belle de mai

41, rue Jobin 13003 Marseille vieux port

(メトロ1番線)あるいはjoliette (メトロ2番線)から49番バスで“Jobin Pautrier”下車。あるいはメトロSt charlesか、cinq avenues (メトロ1番線)、longchamps (トラム2番線)から徒歩5分